

PROWISE | ITとマネジメントの融合を考えるオピニオン情報誌

Vol. 78

Quarterly Magazine  
Winter 2026  
Presented by  
Hitachi Solutions, Ltd.

# プロワイズ



2025日本BtoB広告賞

特集: 自由に

自由な  
ボーダーレス  
社会の実現

Gaku

特集

# 自由に

## 今号の表紙

アーティスト・GAKUさんの作品『The Rite of Spring』

GAKUさんが21歳の時の作品。花々が咲き乱れて散っていくような風景が広がり、そこに少しずつ光が入り込んでくるのが見えてくる。この作品では、絵の具を厚く塗ることにより、凸凹の質感が表現されている。

## Contents

4 Prowise Special Talk

### 林家つる子

落語の世界をもっと自由にもっと豊かに

8 Prowise Interview 01

### 半澤節

社会起業家は、ワクワクする未来へ  
みんなを誘う存在

12 Prowise Interview 02

### 小林涼子

農業・福祉 あらゆる境界を越えて  
自然との再接続を試みるAGRIKOの挑戦

16 21世紀のものづくり

### 創作水引／中村江美

伝統の技法をアップデートしながら  
人との結び人と人を結ぶ

20 ハロミン ―コミュニティ活動レポート―

北米最大級AIイベント「Ai4 2025」が映す遠くない未来  
AIエージェントは企業変革や産業応用の中核基盤へと進化  
その時、企業がやるべきことは？

24 インクルーシブな未来を創造する Vol.4

協創の体験価値を多様な人々と共有する

28 グローバルトレンドレポート

AIエージェント全盛の今、  
求められるHRの役割と使命

30 技術レポート 第6回

量子コンピュータが暗号を解読する時代を前に  
求められる耐量子暗号への準備

32 日立ソリューションズのサーキュラーエコノミーの取り組み

パートナー探しの困難を乗り越え  
本社オフィスで始まったペットボトルの水平リサイクル

34 Prowise Info (日立ソリューションズ情報)

Prowise Info+ (グループ会社情報)

38 from Prowise

Prowise(プロワイズ)とは「Pro(Professional)」と  
「Wise(英知/叡智)」を組み合わせた造語です

企画・発行 株式会社日立ソリューションズ  
経営戦略統括本部サステナビリティ推進本部  
〒140-0002 東京都品川区東品川4-12-7 日立ソリューションズタワー  
https://www.hitachi-solutions.co.jp/

編集長 藤井千絵  
発行日 2026年1月5日  
—

表紙：GAKU  
編集協力：日経BPコンサルティング  
アートディレクション：犬飼健二／デザイン：犬飼デザインサイト  
執筆：二階堂尚、松田慶子、林愛子、津田浩司  
撮影：竹井俊晴、本浪隆弘  
印刷：日立ドキュメントソリューションズ

※目次写真は、筑波大学 三谷純教授の折紙作品を使用しています。  
※本誌に掲載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。



## 自由な ボーダーレス 社会の実現

国、地域、制度、仕事、ジェンダー、思考……。私たちは、様々な「ボーダー」境界の中で生きている。しかし、人は常にボーダーを越えたいと願う。自由に境界を越えて、新しいものを発見したい。その強い思いが、人間の歴史をつくってきた。未来もまた、その思いによって紡がれていくのだろう。自由に、ボーダーレスに躍動する人々が、サステナブルな社会を支えていくのだろう。

巻頭特別インタビュー

落語家  
林

家

つ

る

子



Prowise Special Talk





はやしや・つるこ

群馬県高崎市出身。中央大学で落語研究会に所属。2年次に全日本学生落語選手権・策伝大賞で審査員特別賞、4年次に全国女性落語大会（もりとてちゃん杯）で優勝する。卒業後の2010年、九代林家正蔵氏に弟子入り。24年3月に落語界で女性初の抜擢真打昇進を果たす。

## 落語の世界を もっと自由に もっと豊かに

2024年、女性噺家として初めて、12人の先輩を追いつく抜擢真打となった林家つる子氏。古典の名作に出てくる女性の登場人物を主人公にして物語の裏側を描く彼女の挑戦は、落語ファンの心を捉えている。ボードアを越える挑戦を続けるつる子氏が、自身の生き様を語る。



## 12人抜きで 真打に昇進

吉原の女郎にうつつを抜かす夫に愛想をつかして、幼い息子とともに家を出る「子別れ」のお徳。酒ばかり飲んで働こうとしない夫の気持ちを入れ替えさせるために、3年間囃をつきとおす「芝浜」のお光――。

古典落語には、耐える女性や許す女性が数多く登場する。その存在が物語の肝となる場合も少なくないが、物語のほとんどは男性が主人公で描かれているため、女性はおのずと脇役となる。歴々の名人たちが演じてきた古典落語の中の女性の登場人物を主人公にして語り直し、一躍注目を集めた。30代半ばにして異例の12人抜きで真打に昇進した理由は語られないことではあるが、その斬新な芸が評価されたことは間違いないだろう。兄弟弟子を抜いて真打となる抜擢真打は12年ぶり、女性落語家としては初めてのことだった。青天の霹靂だったとつる子氏は言う。

「抜擢の話が出ているから、至急連絡をするように。そんな留守電を電車の中で聞きました。頭が真っ白になりましたね」

思いがけず師匠と呼ばれる立場になって、周囲や世間からの目が大きく変わったことを実感した。高座にも彼女を目当てに来る客が増え、大きな喜びとプレッシャー、その両方を感じたと話す。



## 大学の落研で知った古典落語の面白さ

### 落語は究極の エンターテインメント

内気な子どもだった。表現の面白さを知ったのは、小学五年生で出合った演劇だった。高校で演劇部に所属し、コメディで客の笑いを取る快感を知った。

落語に出合ったのは大学に入学してからだ。演劇が音楽のサークルに入りたいと、新入生勧誘の声に耳を傾けながらキャンパスを歩いていた時に、落語研究会のメンバーから声を掛けられた。「うちはコントもやるから、演劇好きなら絶対気に入ると思う」と誘われた落研が、実は古典落語ばかりをやるサークルであることを知ったのは入部した後だった。

「騙されたと思いました(笑)。でも、先輩方の落語が本当に面白かったんです。落語は年配の皆さんの演芸というイメージがあったので、若い人たちが落語をやっているのがとても新鮮でした」

一人で何役もこなしながら、所作と語りだけで情景を伝え、物語を進めていく。演目には滑稽噺もあれば人情噺もあり、客を笑わせることも泣かせることもできる。江戸時代を舞台にした物語が現代に生きる人々の心を捉える。同じ演目でも、演者によって趣は大いに異なる――。落語は究極のエンターテインメントだと感じたという子氏は言う。





大学の4年間は落語にとっぷりとつかり、学生落語の大会で賞も幾度か受賞した。もつと落語を突き詰めたい。そう思ったが、プロの落語界は全く未知の世界である。恐れが先に立ち、まずは社会人に、と就職活動を始めた。

就職活動に今一つ身が入らなかったのは、落研の卒業公演を控えていたからだ。学生最後の高座に手は抜きたくはなかった。就職と落語。その2つを天秤にかければ、重りは落語の方に傾く。就職活動をしたことで、自分の心を知った。

両親に漸家になりたい旨を伝えた。娘を慮る父は、一度就職してからでも遅くはないと諫めた。漫画家になる夢を断念した経験のあった母は、やりたいことがあるならやるべきと娘の背中を押した。

母の激励の勢いを駆って、落研顧問にして新作落語の作家でもあった黒田絵美子教授のもとに赴いた。教授が、当時は落語協会理事、現在は会長を務める人情噺の大家、柳家さん喬氏と縁深く、2人に相談すると、縁がつながり、かつてテレビでこぶ平の名で愛された九代林家正蔵氏のもとへの入門が決まった。2010年9月のことである。

「古典落語に真正面から取り組む師匠の姿に感銘を受けて、ぜひ弟子入りさせていだきたいと思いました。林家一門で初めての女性弟子であつたな子姉さんがいらしたことも大きかったですね」



しかし、弱冠22歳の女性  
が、男性が多数を占める落  
語の世界で生きているのは楽で  
はなかった。移動時に師匠  
方たちの荷物を持つのは前  
座の仕事だが、女性に荷物  
を持たせる様子は世間体の  
いいものではない。楽屋での着つけを女性  
に手伝ってもらうことを遠慮する師匠もい  
た。古典落語には、バレ噺や廊下など性的  
なニュアンスを含む演目、江戸っ子の乱暴  
な言い合いが出てくる演目も多い。それを  
女性弟子にどう教えればいいのか、師匠にも  
戸惑いが見られた。苦労したのは、楽屋や  
稽古場だけではない。高座に上がれば、女  
性の噺家が出てきたというだけで、露骨に  
嫌な顔をする客もいた。

「男性の若手と比べて、越えなければなら  
ないハードルは多かったかもしれない。でも、  
それが努力する意欲につながったこと  
は確かです」

## 師匠が開いてくれた 独自の芸風への道

古典落語を女性ならではの視点で解釈する芸風に道を開いてくれたのは、師匠である正蔵氏の度量であつた。古典をしつかり

身につけて、耳の肥えたお客様に納得していただくことももちろん大事だけれど、俺はそれだけじゃないと思う。女性にしかできない噺は絶対ある。挑戦したいと思うことがあれば何でもやってみたいらしい――。師匠のその言葉で、一気に頭が柔らかくなり、視界が広がった。

前座の頃からアイデアを練り、二つ目になって恐る恐る新解釈による古典に取り組み始めた。勇気あるその一歩が今につながっている。

『芝浜』や『子別れ』を幾度となく聞いてきた通のお客様の前で自分の解釈を披露するのは、本当に怖いことでした。でも「そういう見方があつたんだ」「つる子にしかできない噺だね」と言ってくださる方が男女を問わずいらつしやって、それが支えになりました。「古典を侮辱している」といった否定的な意見もありましたが、信念があつたので、やり通すことができました」

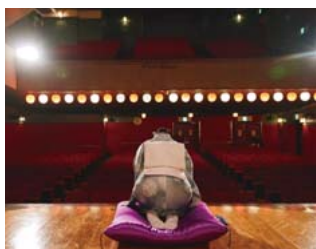
現在は、ストレートな古典、新解釈の古典、新作と、バランスの取れた演目で多くの愛好家の心を捉える。一方で、MC曼茶

羅というアーティスト名でラップにも取り組んでいる。つる子氏のラップに興味を持ち、そこから高座を聞きにくるようになった人もいるという。すべては、落語ファンの裾野を広げるための活動だとつる子氏は言う。

「若い方々に落語の魅力を伝え、落語の間口を広げていくことが、私たちの世代の噺家の使命だと思っています」

大阪・関西万博(©Expo2025)では「ウーマンズパビリオンin collaboration with Cartier」で落語を披露し、海外からも注目を集めた。振り返れば「ボーダー」を越えることを繰り返してきた歩みだつた。男女のボーダー、古典と現代性のボーダー、芸と芸のボーダー、国と国のボーダー。この先どのようなボーダーを越えていくのか。それはまだ分からない。

「真打昇進までは、落語界が花火を打ち上げてくださいます。でも、ここから先は自分で花火を上げなければなりません。新しいことに挑戦し続け、お客様に喜んでいただける花火を上げられる人でありたい。そう思っています」



## 落語の間口を広げることが私たちの世代の使命

はんざわ・たかし

大学卒業後、株式会社ボーダレス・ジャパンに入社。ミャンマー農家支援やバングラデシュの児童労働問題を解決するための事業、トルコでのシリア難民雇用創出事業などに携わる。帰国後は社会起業家の事業立ち上げ支援を担当。2020年より同社が運営するソーシャルビジネススクール「ボーダレスアカデミー」事業代表として社会起業家育成に尽力。

社会起業家は、  
ワクワクする未来へ  
みんなを誘う存在

Promise Interview 01

事業を通じて  
社会課題解決を図る、  
社会起業家向けの  
ソーシャルビジネス  
スクールを運営

## 半澤節

ボーダレスアカデミー代表

半澤氏は――

- ① Q なぜ、社会起業家を  
増やしたいと考えるのか？
- ② Q なぜ、起業を完遂する力を  
受講者たちに育み得るのか？
- ③ Q なぜ、挑戦を応援する  
文化の醸成を願うのか？



## 多様な課題の解決には 多様な社会起業が必要

— ボーダレスアカデミーとは、どのような組織でしょうか。

ソーシャルビジネス（社会課題解決を目的にしたビジネス）を展開するボーダレス・ジャパンが運営するソーシャルビジネススクールです。ボーダレス・ジャパンは、2007

年の創業以来、世界14カ国で50以上の事業を立ち上げてきました。その

過程で確立したメソッドを社会課題解決のための起業を志す人に伝えるため、2018年にボーダレスアカデミーを設立。これまでに125人の社会起業家が誕生しています。

— 受講生はどのような方々ですか。

*Interview with Takashi Hanzawa*



常時80〜100人が受講していますが、ビジネスパーソンだけでなく、個人事業主、教員、学生、育休中の方など幅広い方々が集まっています。

コロナ禍前は海外の貧困問題などへの関心も高かったのですが、コロナ禍後は国内課題への関心が顕著になりました。子育て、教育、障がい者福祉、高齢化、環境問題、技能実習生との共生など、多岐にわたります。

すでにビジネスアイデアを持ち、それを形にする方法を求めて来る方もいれば、社会のために何かしたいとヒントを探しに来る方もいます。自社での新規事業開発に活かしたい人や、自分のスキルをより直接的に社会に役立てたいという個人的な目的で参加する人などいます。

―半澤さんはどのような経緯で事業代表になったのですか。

学生時代からビジネスを通して貧困問題を解決したいという思いがあり、新卒でボーダレス・ジャパンに入社しました。東日本大震災で地元の宮城県が甚大な被害に遭って辛い経験をする一方、トルコやヨーロッパで厳しい状況に置かれているシリア難民の状況を他人事と思えず、彼らのための仕事と居場所をつくる事業を立ち上げました。この事業は黒字化できず、結果的に撤退しましたが、その過程で私自身、大きな学び

を得られました。

この経験は、多くの社会起業家志望者がぶつかる壁と同質のものでした。そこで、ボーダレス・ジャパン代表の田口一成が、私の経験を起業家志望者へ還元してはどうかと、当時自ら手弁当で運営していたアカデミー事業に誘ってくれたんです。私自身も起業家志望者が途中で諦めてしまうのはもったいないと感じていましたし、自分の失敗体験を活かして社会貢献を志す人の背中を押せるなら、これも価値ある社会起業だと考え、アカデミーの事業化と運営を担当することになりました。

―そもそも、なぜ社会起業家を増やしたいとお考えでしょうか。

社会起業家は、社会問題を解決してネガティブをゼロにするだけでなく、さらにプラスの未来を創造する存在です。例えば貧困問題に取り組



Interview with Takashi Hanzawa

信じています。

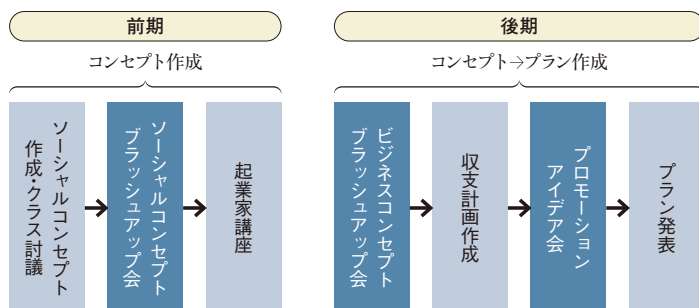
「何のために？」を  
研ぎ澄まします

―先ほど、社会起業に挑む人の多くが直面し、事業撤退を余儀なくされる壁があるとおっしゃいましたね。どんな壁ですか。

自分のやっていることを信じられなくなるという壁です。現状、未解決の社会課題は、経済合理性を見いだしにくい領域がほとんど。収益性が高ければすでに誰かが取り組んでいるからです。そのため、最初からうまくいく事業は多くはありません。ビジネスモデルを再構築する過程で、多くの人が市場ニーズに引つ張られ、本来の志からずれていくのです。自分が本当にやりたかったことと乖離し、「このまま続いているのか」「本当に助けたい人の状況は改善される

む際も、個人の救済にとどまらず、社会全体が豊かに暮らせる仕組みを構築します。彼らの役割は、誰もが希望を持てる社会の未来を提示すること。社会には課題が山積してありますが、より多くの人が社会起業に挑戦すること、皆の力で希望あふれる未来を実現できると

#### 社会起業伴走プログラムの流れ



提供：ボーダレスアカデミー

のか」という疑問が壁となり、挫折してしまう人が少なくありません。―その壁を乗り越える術について、どのように教えているのですか？ 私たちは「本当に解決したいことは何か」を探ることから始めます。通常のビジネスは市場ニーズから出発し、収益性が低ければ継続する理由を失います。対して私たちは、例えばシングルマザーの貧困問題なら、その原因や背景を徹底的に掘り下げ、解像度を上げていきます。そこから「支援が届かない本質的理由」を見いだし、ソリューションの方向性を



明確にしていきます。最初のアイデアがうまくいかなくても、根本的なコンセプトが定まっていれば次のビジネスアイデアを考えられるため、納得感と自信を持って突き進んでいくのです。

課題の本質を徹底追究して2回目に挑戦した起業は成功率が高いことが分かっていきます。一般的にベンチャーは長期存続が難しいといわれますが、ボーダレス・ジャパン式では半数以上が10年以上続いています。――本質的な原因を、どのように探っていくのでしょうか。

3カ月間の伴走期間中、第一線で活躍する社会起業家がメンターとなり、受講者の壁打ち相手としてビジネスプランの深掘りを促します。また同期同士でのグループディスカッションも重要な要素です。

――受講生同士で意見交換を積極的に行う、ということですね。

そうです。互いのビジネスプランを聞き、社会課題について話し合う



過程で「あなたは本当は何をしたいの?」「その考え方はあなたらしいね」といった質問や助言が生まれます。それによって「自分は誰のために頑張りたいのか」「自分が情熱を傾けられる課題は何か」を研ぎ澄まし、事業アイデアを磨いていくんです。卒業までに自分の軸をつかめるので、多少の困難があったとしても乗り越えられるようになります。

## 現場イズムと

## 長期的視野が大事

――起業家精神を社内に醸成したいと考える経営者は多いものです。互いに課題を掘り下げ合う場を持つことは、企業でも実践できそうです。

す。他に企業でできる育成方法はありませんか。

ボーダレス・ジャパンには大手企業からの出向者もいますが、半年間の現場経験を通じて彼らが圧倒的に変化していくのを目の当たりにします。企業研修の場でも感じるのは、現場イズムを持つことの重要性です。単なる座学ではなく、現地で汗をかく体験が思考と行動を根本から変えます。

多くの人は現場経験が不足しています。例えば難民問題を解決したいと思っても、難民に会ったことがない。実際に当事者と会い、その現場に向き合うことで初めて「自分事」として捉え、情熱が生まれるんです。

データだけでは見えない人間の顔を現場で見る機会、実体験の場をつくることをお勧めします。

また、挑戦する人への寛容度を高めることも非常に重要です。

――挑戦を応援するということですか。応援も大切ですが、それ以上に失敗をおおらかに受け止め、セカンドチャンスを与えることが重要です。私自身、トルコでの事業失敗後、仲間に合わせて顔がないと思いつつ、帰国しましたが、皆は「ナイストライ!」と迎えてくれました。この雰囲気があるから軽やかに挑戦でき、失敗を成功に変えられるのです。

繰り返しになりますが、社会課題は経済的リターンが得られにくいからこそ未解決なのです。短期的な収益性だけでなく社会的価値も重視し、こうした困難な分野に挑む人を長期的視点で応援していただきたいと思っています。現場での気づきと、挑戦を応援する風土の両輪が、真の変化を生むと考えています。

## 未来へのアクション

社会起業家の育成を通じて失敗を恐れない挑戦の文化を広げる半澤節氏の記事は、WEBでも読めます。ビジネスに役立つコンテンツが満載のWEBサイト「未来へのアクション」はこちらから(2026年2月掲載予定)



農業・福祉  
あらゆる境界を越えて  
自然との再接続を試みる  
AGRIKOの挑戦



Promise Interview 02

## 小林涼子

AGRIKO代表取締役、俳優

食べることも立派な応援  
買い物をする時に  
生産者に思いを馳せる  
それが農への貢献になる

### こばやし・りょうこ

東京都出身。子役としてデビュー、NHK連続テレビ小説『虎に翼』をはじめ、数多くのドラマや映画など出演。俳優業のかたわら、2014年より農業に携わり、家族の体調不良をきっかけに2021年株式会社AGRIKOを起業。農林水産省「農福連携技術支援者」を取得し、自然環境と人に優しい循環型農福連携ファーム「AGRIKO FARM」の運営、アート事業を展開。さらに報道番組への出演やラジオナビゲーターなどパラレルキャリアで活動の幅を広げている。

Interview with Ryoko Kobayashi



小林氏は――

①Q なぜ農福連携に着目し起業したのか？

②Q なぜアートのレンタル事業を承継したのか？

③Q なぜ人財活用に注力するのか？

おいしいお米を买えるのは  
当たり前ではない現実が  
起業の原動力に

――俳優と並行して起業家としても活動  
されています。キャリアを広げ  
たきっかけを教えてください。

俳優の仕事は4歳の頃に始めて、  
ドラマ出演などもしましたが、思う  
ようなキャリアを描けず、同級生が  
就職活動を始めた頃に、将来への不安  
に襲われました。10代から20代を  
駆け抜け、心が少し疲れてしまった  
のだと思います。そんな私を見た家  
族が、父の友人の田んぼがある新潟  
で稲刈りをしようと連れ出してくれ  
ました。うちの実家は農家ではあり  
ませんでしたが、もともと食育が豊  
かで、果物狩りや潮干狩りなどにも  
頻繁に行っており、稲刈りもその延  
長線だったのだと思います。それ  
が農業との出会いでした。

――現地での体験はいかがでしたか。  
お米はおいしいし、空気が景色も

きれいで、人が優しい。必要以上に  
着飾る必要もなく、等身大の自分で  
いられました。その心地良さにすっ  
かり魅せられ、仕事の合間に通って  
いたのですが、コロナ禍と家族の体  
調不良が重なって新潟に行けなくな  
りました。現地では農業の担い手が  
不足していたので、このままでは継  
続が困難になるかもしれないと実感。  
米不足を経験した今ならば、お米を  
食べられることが当たり前ではない  
と分かりますが、当時は夢にも思っ  
ていなかったんです。そこで個人の  
善意や寄付に頼らず、持続可能にす  
るにはどうしたらいいのかを考えた  
結果、起業に思い至り、2021年  
にAGRIKO（アグリコ）を設立  
しました。社名は農業を意味するア  
グリカルチャーに子どもの子を合わ  
せた造語。これまで、農業は家業と  
して受け継ぐことが多かったと思い  
ます。しかし、それが立ち行かなくな  
るならば、私たちが代わって継ご  
う、ここに集まる私たちがアグリカ

ルチャーの子どもになろうという意味です。

—小林さんの起業に対し、周囲の方は驚かれたのではないですか。

コロナ禍では動画配信など新しい分野に挑戦する方が多く、その1つと受け止められたのだと思います。

俳優業の所属事務所も「頑張つてね」と応援してくれました。ただ、私はそれまでパソコンも使っていませんでしたし、事務仕事の経験もないので、一から家族に教わり、行政の窓口にも通い、地道な方法で会社を起しました。具体的な事業内容は固まっていまませんが、2014

年から自分が農業に携わりだした経験をもとに農福連携を主軸にしようと考え、農林水産省「農福連携技術支援者」を取得しました。

自然は思うようにならない

タイ・パ・コスパの対極に

農園を位置づける理由

—農福連携に着目した理由を教えてください。

俳優としてオーディションを受ける時はいつもポジティブに、勝ちに行く気持ちで臨んでいたのですが、ある日ふと頑張れなくなることを経験しました。自分では健康なつもり

でも、そうじゃなかった。「健康な状態」と「健康ではない状態」の間には明確なボーダーがあるわけではなく、グラデーションだったんです。福祉はケアする・ケアされるという二極で考えがちです。しかし、福祉の語源は「幸福」であり、立場を分かち言葉ではありません。農業も福祉も農福連携も、誰かのためではなく、みんなのためであって、自分や大切な人の幸せのためでもあるのです。

—その思いを体現する事業の1つが都市農業ということですね。

農業をやる決めて起業したものの、東京には新潟のような広い土地も川の水もありませんから、新潟と同じ農業はできません。それならば東京にしかないものを活かそうと考えていたところに、OGAWA COFFEE LABORATORY 桜新町さんとのご縁を頂き、2022年に世田谷区桜新町に屋上ファーム「AGRIKOFARM PW 桜新町」を開園しました。1階にあるOGAWA COFFEE LABORATORY 桜新町さんの店舗では当農園の農作物を使っているのだと思います。翌年には品川区にあるイタリア料理のgicca池田山さんの屋上に「AGRIKOFARM 白金」を開園。こちらでも、パティスリーとレストランに納品しています。



アクアポニックスは、魚の排泄物を微生物が分解して養分に変え、その水を用いて化学肥料を使わずに野菜を栽培。植物が水を浄化し、再び魚の水槽へ循環させる仕組み

—屋上ではどのようにして農業を行っているのでしょうか。

なるべく自然に近い形にしたいと考え、建築廃材の木や放置竹林の竹を使った水耕栽培と魚の養殖とを組み合わせたアクアポニックスという栽培システムを採用しています。地方は自然のダイナミズムの中にあり、雨や風や、あらゆる生物と接続されていますが、私を含めて多くの人が暮らす都市はそういったものから切り離されています。だからこそ都市農業には自然との再接続という機能が重要と考え、アクアポニックスを採用しました。農園は猛暑や豪雨の影響も受けますから、生産性を考えるなら他の方法にすべきでしょう。でも、タイムパフォーマンスやコストパフォーマンスを追求する中で人は疲弊するのだと思います。少なくとも私はそうでした。私が新潟で感じた



心地良さは効率重視の人工的な世界では得られない。都市農業を通して、都市の人たちに自然のダイナミズムを感じてもらいたいと思っています。

「いいね」だけでなく

「嫌い」も許されるからこそ

都市的価値観とは正反対

―現場ではどういった人材が活躍しているのですか。

地域の障がいのある方々にスタッフとして働いていただいています。障がい特性は多様です。それぞれが得意な仕事に従事することで、生産力を発揮しています。先日農園でエディブルフラワーの剪定を手伝おうとしたら、栽培に長けたスタッフから「それはまだ剪定しなくてもいい」と教えてもらいました。そんなスタッフの活動を支えているサポーターが、子育て世代の女性です。彼女たちは子育ての経験を活かし、表情やしぐさなどから体調の変化を読み取り、感情の起伏に配慮して話すなどコミュニケーション能力に長けています。当農園は従業員定着率がおよそ98%で、転居と結婚以外の理由で辞めた人はいません。それだけ気持ちよく働いていただいているのだと思います。―パラアートにも力を入れているそうですね。

ハーブティーや菓子などのパッケ



六次産業は、一次産業（農業・林業・漁業など）、二次産業（食品加工・製造業など）、三次産業（製品やサービスの流通・販売・提供）を融合し、付加価値を創出する取り組み。AGRIKOでは、ホップを自家栽培し、ビールを製造。企業のノベルティーとして販売

者住宅、飲食店、企業など約150社にご活用いただいています。―俳優業と経営者という2つの仕事を引き来することで、何か影響は出ていますか。

俳優という仕事柄、ものを伝えることは得意な方だと思います。―日本の農業はいま転換期を迎えています。米価の変動を見て、農家の立場では、少しほっとするような気持ちの一方で、消費者の立場だと高いと感じますから、何を正解とするかは難しい。だからこそ発信をして相互理解を深めることで「生産」と「消費」のボーダーの概念をなくして両側面から持続可能性を話し合っていく必要があると思っています。消費者にとっては食べる行為も立派な応援で、当社のビールも生産者である障がい者に還元されるようになっていきます。買い物の際には生産者に思いを馳せてもらえたら、そうやって生産者と消費者の間のボーダーが少しずつ曖昧になっていったらうれしいです。



Interview with Ryoko Kobayashi

一例ですが、当社では六次産業化にも取り組んでおり自社農園で栽培したホップでビールを製造するほか、それを企業のノベルティーなどに使っています。その際に「障がい者と健常者」から「生産者と消費者」へ関係性を改めることで企業の想いやスタンスを伝えていきます。また、今日のように取材していただけるのは、俳優というお仕事をやってきたからだと思っています。

一方で、起業してから役づくりの解像度も上がりました。今まではパソコンを使うシーンでもその意味まで考えたことがなかったのですが、今は自分事として考えられるので「朝だと昨夜のメールを必死で返している」「夜なら今日中に片づけた仕事に取り組んでいる」といった部分まで想像でき、地に足の着いた気持ちで演じることができています。―これからの農業の展望を聞かせて

#### 未来へのアクション

俳優であり農業と福祉を融合させた事業を営む経営者でもある小林氏の記事は、WEBでも読めます。ビジネスに役立つコンテンツが満載のWEBサイト「未来へのアクション」はこちらから（2026年2月掲載予定）



# 創作

伝統の技法を

アップデートしながら

人との結び

人と人を結ぶ

Mizuhiki



# 水引



再生紙でつくった  
「アップサイクル水引」の  
ネックレス。  
金糸で巻いた水引を加えて  
装飾性を高めている



水引アーティスト  
中村江美 なかむら・えみ

秋田県出身。2017年に水引を使った創作活動を開始。  
20年に「TOKYO MIZUHIKI」―東京水引―を立ち上げる。G7広島サミット(23年)や、渋谷ハチ公の水引衣装インスタレーション(24年)などに作品を提供。  
近年は「アップサイクル水引」にも取り組んでいる。

冠婚葬祭にまつわる装飾として私たちの生活に浸透している水引。その歴史は飛鳥時代にさかのぼると言われる。長い歴史をもつその水引を使ったアクセサリやアートをつくっているのが、水引アーティストの中村江美氏だ。水引の魅力と創作の秘密を中村氏が語る。

上／水引でつくったランプシェード。アクセサリ以外に、このような小物の作品も数多くある  
中／繊細なフォルムが魅力の一輪挿し  
下／水引は実は水にも強いので、食卓などで使う小物も多い。  
写真は箸置きシリーズは、寿司をかたどった箸置きは、外国人にも人気が高い

## 私

たちにとって最もなじみがあるのは、ご祝儀袋に結ばれた紅白の紐だろう。紙幣を美しい袋に入れ、紐で装飾することで、贈りものに真心を込める。日本文化の美しさときりげなさが表現されたあしらいの一つだ。

その美しい紐の来歴と、それが「水引」と呼ばれるようになった経緯に定説はない。一説には、飛鳥時代に遣隋使として現在の中国に派遣された小野妹子が、日本に持ち帰った土産に紅白の紐が結ば

れていた。これを模して、麻を撚<sup>よ</sup>って糊で固めたのが日本の水引の始まりだと言われる。固めるのに水糊を使ったから、あるいは着色の際に水を使ったから、さらには魔除けの意味を込めて水で清めたから等々、水引の名の由来には複数の説がある。

初期には麻でつくられていた紐は、後に紙を原料とするようになり、髪を束ねる元結などにも使われるようになった。長く貴族文化として伝承されてきた水引

「結ぶ」という  
単純な作業で  
多彩な形をつくれるのが  
水引の大きな魅力

梅結びを重ねたブローチ／髪飾り。  
金色のフィルムでコーティングした  
水引を使い、高級感を演出している



が庶民に広まったのは、江戸時代になっ  
てからである。江戸の寺子屋などで、女  
性が水引の結び方を教わることも少なく  
なかったという。

贈答品に水引をつける風習が人々の間  
に広まったのも江戸時代のようなものだ。もと  
もと中国からの贈り物につけられていたもの  
だから、本来の意味合いで普及したこ  
とになる。飛鳥時代が起源であるという  
説を信じるならば、今日まで実に140  
0年にわたる長い歴史をもつ風習である。

儚く見えても  
簡単に壊れたりはいらない

創作水引作家・中村江美氏が水引を使  
った作品をつくり始めたのは2017年  
だった。商業施設のデコレーションや内  
装を手掛けていた夫の仕事を手伝う中で、  
たまたま出合ったのが水引だったという。  
「ホテルの壁に飾るアートパネルをつ  
くっている時に、安全性を考えて、でき  
るだけ軽い素材を探していた時にたどり  
着いたのが水引でした。水引の素材は紙  
なので、大きな飾りとして使  
っても重くならないんです」  
パネルを仕上げた後、余っ  
た水引でアクセサリーをつく  
ったのが最初の作品となった。  
それ以前に造形の趣味があつ  
たわけではなかったが、すぐ  
に水引の魅力のとりこになっ  
たという。



「結ぶ」という単純な作業  
でいろいろな形をつくれるの  
が水引の大きな特徴です。市  
販の水引には500種類以上  
の色があるので、いろいろな色彩  
を組み合わせることもできます」

水引づくりを始めてわずか1週間ほど  
で、一般の人が参加するワークショップ  
を主宰し、参加者と一緒に水引の作品づ  
くりに取り組むようになった。ワークシ  
ョップは現在も続けている。

「紐を結ぶだけで、こんなにたくさん  
の形をつくることができるんだ。そう驚  
かれる方もたくさんいらっしゃいます。  
そういう方々と一緒に水引に触れること  
で、私自身のアイデアもどんどん膨らん  
でいきました」

自身の創作水引のブランドを立ち上げ  
たのは2020年、ブランド名は  
「TOKYOMIZUHIKI」東京水  
引」とした。現在は、東京・目黒にブテ  
ィックを構え、自作のアクセサリーや小  
物類を販売している。

紙を原料とした水引をアクセ  
サリーとして身につけても大丈  
夫なのだろうか。ついそう考え  
てしまうが、何の心配もないと  
中村氏は言う。市販されている  
水引の多くは、防水性・防湿性  
に富んだ素材である蒸着フィル  
ムや、化学繊維の一種であるレ  
ーヨンなどでコーティングされ



樹脂でコーティングした  
アジサイの花びらと、  
4本の水引を組み合わせて  
つくったイヤリング



あわじ結びを  
アレンジしてつくった  
イヤークラフ。  
人気商品の一つだ

水引には曲線の  
イメージがあるが、  
このような直線的なデザインの  
アクセサリーもつくっている



あわじ結びを  
組み合わせて  
つくった立体的な  
ブローチ／髪飾り。  
複数の色の水引を  
組み合わせている



ている。だから見た目の繊細さに反して、実は耐久性に優れているのだと。

「蒸着フィルムを使った水引は、水に長時間漬けておいてもほぐれたりするとはありません。儼く見えても、簡単に壊れたりはいらないのも、水引のアクセサリーの大きな魅力です」

東京水引の店舗には、イヤリング、ピアス、イヤークラフ、ネックレス、ブローチ、髪飾りなどのアクセサリーの他、一輪挿し、ランプシェード、壁飾りといった多彩なアイテムが並ぶ。すべて中村氏が手がけたものだ。つくる際にはデザインスケッチなどは一切用意せず、仕上がりイメージすることもほとんどないという。

「手が勝手に動いていく感じです。一つのアクセサリーが数分でできてしまうこともよくあります。逆に時間がかかる時は、いいものがないことが多いですね」

店舗での接客などの時間以外は、常に手を動かしている。途中まで作業を進め、しばらく寝かせた後で、再び手をつけて作品に仕上げるケースもある。アクセサリーをつくらうと思っていいたら、壁掛けができてしまった。そんなクリエイティ

ブなアクセサリもよくあるという。

「手を動かしていると、忘れていた昔の記憶がたまによみがえってきたりします。子どもの頃に遊んでいた木の洞、防波堤、父に連れて行ってもらった美術館……。そういう無意識のイメージが作品づくりに活かされているような気がしますね」



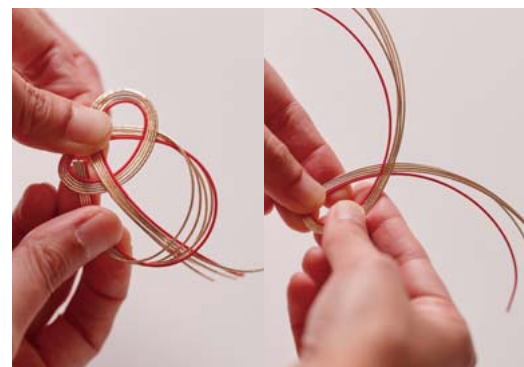
## 1400年の歴史を 後世につないでいく

水引には、あわじ結び、蝶結び、梅結びなど伝統的な結び方がある。そういった伝統を大切にしながら、一方で新しい手法に果敢にチャレンジしていくのが東京水引のコンセプトだ。中村氏はそのコ

ンセプトを「水引をアップデートする」と表現する。

リサイクルした紙資源を使った作品づくりも、「水引をアップデートする」取り組みの一環だ。資源を有効活用することで、持続可能な社会づくりをめざす一般社団法人アップサイクル。およそ50社の企業が参画し、東京水引もメンバーとなっているその団体のプロジェクトから生まれた「アップサイクル紙糸『TSUMUGI』」を用いて、「アップサイクル水引」をつくっている。市販の水引とは手触りの異なる生成りの風合いを活かした作品に、サステナビリティをめざすメッセージを込める。しかし、メッセージだけで作品を買ってもらえるわけではない。社会的に意義ある素材を使いながら、あくまで作品の魅力によつて手に取ってもらえることをめざしたい。そう中村氏は話す。

ブランド以外の活動にも積極的に取り組んでいる。2023年のG7広島サミットの際は、夕食会に用いる全長24mの水引のテーブルランナーを提供し、伝統工芸の担い手に贈られる「三井ゴールドン匠賞」の奨励賞を受賞した。「世界の国々を結ぶ」という意味を込めたと中村氏は説明する。



5本の水引をあわじ結びにする様子。接着剤を用いなくてもしっかりと造形に仕上がる。水引の本数は3本、5本など割り切れない数にすることが多い

「紐を結んで形をつくっていく水引には、人と人を結ぶ」という意味合いがあると私は考えています。水引をつけた贈り物は、贈る人と贈られる人を結ぶものです。東京水引のアクセサリーをプレゼントに選んでいただくことが多いのも、水引の意味を理解していただいているからだと思います」

創作のアイデアは常に溢れている。水引の間口を広げ、水引の魅力を多くの人に知ってもらいたい。その強い思いが創作の原動力となっている。伝統と新しい試みの間を行き来しながら、表現を常にアップデートしていくことで、人との結び、人と人を結び、伝統と今を結ぶ。そうして、1400年の歴史を後世につないでいく……。そんな思いを胸に、中村氏は今日も水引に向かい続けている。

当社が運営するコミュニティ「ハロみん」は、2025年9月にオンラインイベント「GLOBAL TRENDS NOW」を実施しました。その1カ月前の25年8月には北米最大級のAIカンファレンス「Ai4 2025」が開催されました。本記事は当社のAIの取り組みと「Ai4 2025」の内容をお伝えします。

## 日立ソリューションズのめざすAIトランスフォーメーション

最初のセッションでは北林が登場し、「日立ソリューションズの生成AIへの取り組み 2025」について紹介しました。当社では、AIのめざす方向性として、「DX by AX toward SX」というキーワードを掲げています。これは、生成AIをはじめとしたAI技術を駆使するAX（AIトランスフォーメーション）を進めることにより、社会とお客様と自社のDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、最終的には持続可能な社会

ハロみんーコミュニティ活動レポートー

## 協創で未来を創っていく

北米最大級AIイベント「Ai4 2025」が映す遠くない未来AIエージェントは企業変革や産業応用の中核基盤へと進化その時、企業がやるべきことは？

の実現に向けたSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）に貢献することを目的としています。

現在、AX推進本部では、DXの中のAXに向けた柱について以下の4つを定義しています。

- ①ソリューション高度化…AIエージェントをコアとした商材を通じ、顧客提供価値を向上
- ②社内業務効率化…AIエージェント活用による業務インプロセス化で社内DX/SXを推進
- ③開発業務効率化…生成AIの開発技法、適用シーンの強化・拡大による生産性向上
- ④リスク管理・ガバナンス…AX推進の加速に向けたAIリスクマネジメントの浸透

これらを日立グループ内で組織横断的に施策連携を推進しています。

## 日立ソリューションズにおける生成AI活用の取り組み状況

北林は、「これまで当社はリテラシー向上、ユースケース創出、環境整備を中心に生成AI活用に取り組んできました。25年度は全社導入・業務効率化のフェーズにあり、社員活用率やプロジェクト適用率向上を加速させ、生成AIの業務インプロセス化（業務への組み込み）を方針に掲げて活動しているところです」と説明しました。そこで特徴的な取り組みを2つ紹介しました。



川守田 慶  
Kei Kawamorita

Alliance Manager, Business Development and Alliance Group  
Hitachi Solutions America, Ltd.



北林 拓丈  
Hirotake Kitabayashi

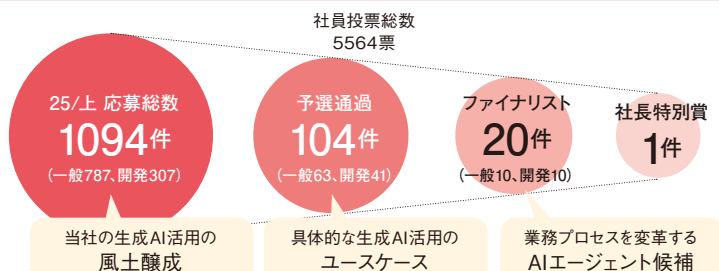
日立ソリューションズ  
業務革新統括本部  
AIトランスフォーメーション推進本部  
AX戦略部  
チーフAIビジネスストラテジスト  
AIアンバサダー

1つは、「自律的活用基盤」です。社員が「今すぐ使える」AIエージェントを日常業務に置くことで自律的活用を推進しています。この基盤には以下のような機能を具備しています。

- ①AIエージェント作成・実行基盤：Allianize社が開発した生成AIを企業内ですぐに使える環境をオールインワンで提供するプラットフォーム「AI ILM App Market」を活用し、1クリックで使える業務アプリを営業・SE・管理職などカテゴリ別に60種以上用意



## 生成AIを100%活用した業務プロセス変革にむけた当社グループ全社活動



生成AI利用率35% (24/11)→83% (25/9)

社内業務全般や開発プロセスでの生成AI活用のアイデア、事例を募集する「生成AI活用アイデアコンテスト」を開催

②社内情報AI横断検索（活文企業内検索基盤）…社内にある文書を生成AIで横断的に検索  
③生成AI・エージェント活用ナレッジ…組織知の集約や高め合う文化の醸成を促進  
④利用状況ダッシュボード…利用状況のモニタリングや効果の可視化  
他にも、社内データを蓄積するレ

イクハウスや、社内システムと外部サービスをつなぐAPI連携機能も用意するなど、機能・サービスを増やしている状況です。

もう1つは、「生成AI活用アイデアコンテスト」です。生成AIを当たり前に使う企業風土の醸成と、生成AIの社内利用率100%をめざす施策として開催しました。募集テーマは、身近な業務課題などを解決する「社内業務全般の改善」と、「開発技法・プロセスの改善」の2つで、利用中から構想段階のものまで幅広く対象とし、上期・下期の2回開催しています。

北林は、「コンテストの応募総数は当初想定の上の2倍以上となる1094件となり、104件が予選を通過。その中から20件がファイナリストとして選ばれ、最終的に社長特別アイデア賞が1件選ばれました」と説明しました。社長特別アイデア賞受賞のテーマはHitachi Solutions America, Ltd.にて開発された、輸出管理業務のキャッチオール規制審査におけるエンジェンティックAIです。エンジェンティックAIを活用することで、審査対象企業の情報収集から分析、審査レポートのドラフト生成、問題点の調査、レポート

の完成までを自動化しました。AIが自律的にドラフトから問題点を特定し、調査計画を立案、実行することができたため、審査時間の約60%短縮を実現した点などが評価されました。こうしたアイデアは、業務プロセスを変革するAIエージェントの候補として、今後の自律的活用基盤に具備していく計画です。

## 北米最大のAIイベント「A i 4」からみる生成AIトレンド2025

次に、Hitachi Solutions Americaの川守田が、A i 4 2025の紹介を行いました。A i 4とは、北米最大級のベンダーニュートラルAIカンファレンスで、AIエージェント、生成AI、LLM、AIガバナンス、セキュリティなどをテーマに、キーノート、セッション、パネルディスカッション、展示、ネットワーキングなど複合形式で知見が提供される機会となっています。特徴は、ベンダー主催イベントと異なり、中立的な立場でAIの最新動向を扱う場として位置づけられ、企業事例・技術トレンド・社会的インパクトまで幅広く網羅していること。今年

アメリカ・ネバダ州ラスベガスにあるカジノホテルMGM Grand, Las Vegasで約8000人を集めて開催されました。

## AIを「脅威」と「協働のパートナー」という対極視点で議論を展開

川守田は注目のキーノートの中から、「AIと人類の共存モデルを探る」というテーマを取り上げました。ここでは、AIを「脅威」と「協働のパートナー」という対極的な視点で議論が展開されたと述べました。まず、トロント大学教授のGeoffrey Hinton氏は、高度なAIは自己保存や支配を学習する恐れがあり人間の制御は困難で、倫理的リスクを伴う可能性があるため力を抑え込むのではなく、「母性的な特性設計」にシフトし国際協調が不可欠と主張。

一方、ワールドロボテックノロジーズの共同創設者Fei-Fei Li氏は、AIは人を補完するツールであり、AIは人間の尊厳と主体性を守る枠組みの下で設計・活用されるべきと主張し、人間の尊厳・主体性を守りつつAIを活用する枠組みの構築を提案しました。



写真：主催者提供

Ai4の所感と考察について川守田は「全体を通してAIは人を置き換えるものではなく協調するものというスタンスの講演が目立ったものの、実際はエントリーレベル世代の役割がAIに置き換わってきている印象を受けました」と述べました。

「人間はより高度スキル人財の役割にシフトしており、AIが台頭した現状でどのように高度スキル人財を育成するかが課題だと感じました。

また、AI利用者に求められるスキルが、従来のプロンプト（指示文）による工夫から、コンテキスト（文脈）をどう設計するかにシフトしているようです」。さらに、ガバ

ナンスについて、昨年は独立したセッションで語られていましたが、今年は各セッションで組織横断的に織り込まれる前提での講演が目立ち、ROIやスケラビリティ議論の中で説明責任や透明性が当然の条件として扱われていたということです。

### 「協働・拡張・統合」で実運用拡大に向けて進化するAIエージェント

次に川守田は、Ai4 2025における注目トレンドを5つ紹介しました。

まずは「Human in the Loop」です。AIと人が協働し、エントリーレベルの作業や定型的・反復的な作業はAIが担当し、人間はAIを監督・統括することで顧客対応や戦略判断に集中できるというモデルです。既に法務や人事の現場ではAIが下書きや資料収集を行い、人間が最終承認するこのモデルが信頼性を担保するようになっていきます。これにより、業務効率化の即効性、製造現場とバックオフィスの協働、信頼性と顧客体験などの効果が期待できるということです。

次に紹介したのが「スケラブル

Agenticアーキテクチャ」です。複数エージェントを協働させるマルチエージェントは前提としつつ、部門や業務をまたぐオーケストレーション設計や、各エージェントを独立したモジュールとして設計し、

### 「協働・拡張・統合」で実運用拡大に向けて進化するAIエージェント



Ai4 2025における5つの注目トレンド

APIで統合する柔軟性の担保、対話型AIによる意思決定支援などが企業展開を成功させる鍵になるということです。カンファレンスではGraphRAG（\*1）による精度の向上や、MCP（\*2）だけをまとめたカタログによる統制的なアクセス管理、SLM（小規模言語モデル）とローカルLLMの活用などを行うことで、拡張性を持たせ、AIの全社展開を促進すべきと提案されていました。

続いては「マルチモーダルAIエージェント」です。より実運用に向けて画像・音声・テキストを統合し、文脈理解や自律実行を強化するAIが主流になることを意味します。言語だけでなく画像や音声を扱えるエージェントが増加することで、従来の物体検知から状況説明・通知高度化へと進化。エージェントは小型・高速・マルチモーダル化することで低コストと高性能を両立します。

次に挙げたのが「コンテキストエンジニアリング」です。従来のAIはプロンプトの工夫が重要でしたが、現在はドメイン知識・要件・環境を含むコンテキスト設計がAI活用の成否を左右する時代へとシフトしています。コンテキストとは、業務ル

\*1 LLMを活用したAIの回答生成技術であるRAG（検索拡張生成）をナレッジグラフ（知識をグラフ構造で体系的に連結したネットワーク）の概念を取り入れることで進化させたアプローチ

\*2 Model Context Protocol: 異なるツール間で文脈を標準的にやり取りする仕組み



ール・KPI・情報ソースの優先度・権限範囲などを整理してAIに与える前提条件を指します。これによりAIの出力は安定し、業務フロ全体に組み込めるようになります。川守田は、「今後開発者は、コーディングをメインとする業務から、コンテンツを設計・供給するエージェント指揮官へと役割が進化していきます。要件・環境を正しくAIに伝える力が成果の差別化要因となるため、経営層の支援や継続学習の場を通じて共通ベストプラクティスや再利用可能な文脈を組織横断で共有する体制が重要になります」と指摘します。

最後に紹介したのは「ガバナンス」です。説明可能性・責任・透明性がAI運用拡大の前提条件に組み込まれ、ROIやスケーリング戦略と不可分な要素として扱われるように変化しました。金融・医療などの規制産業では、精度だけでなく、なぜその判断が出たのかの説明可能性や透明性が強く求められる他、AIの判断理由を示す仕組みが重要となるため、透明性を備えたAIで説明責任を果たすことが求められています。

続いて、再び北林が登壇し、AI

4で公開された事例から見るAIエージェント活用成功のポイントについて言及しました。北林は、「AI導入はツール導入ではなくビジネス課題解決と価値創出が本質だと強調されていました。また、ROI実現には、迅速な試行と、PoC (Proof of Concept: 技術検証) ではなくPoV (Proof of Value: ビジネス価値検証) を積み上げて失敗から学ぶ実験文化を醸成することの重要性が語られていたのが印象的でした」と述べました。また、スケーラブル戦略で全社展開しROIを最大化することや、AIエージェント活用は信頼性・透明性・人材育成を前提に攻めのAI



写真:主催者提供

活用を推進する全社変革であることが紹介されていたということです。

### AIで何を解決するか、 どう価値を生むか、どう 早期に証明するかを分析

その後、北林はいくつかの事例を紹介しました。まずは、複数の業界における生成AIの実践事例です。

ある小売業は顧客ごとの購買履歴や嗜好を活かしたパーソナライズが不十分であることが課題でした。生成AIを用いてパーソナライズドマーケティングコンテンツを自動生成し、顧客属性に応じたメール・広告コピー・商品リコメンドをリアルタイム

に作成した結果、クリック率が20%向上、キャンペーン準備時間も50%削減したといます。また、ある金融業ではレポート作成や規制対応に時間がかかっていた上に人的コスト負担も課題でしたが、AIによる自動レポート生成と自然言語クエリでデータ分析を簡易化したことで、レポート作成期間が数週間から数時間へと大幅に短縮しました。

さらに、ROI測定のベストプラクティス事例では、あるコールセンターから再コール対応による年間

500万ドルのコスト負担を削減するため、誰が再コールするか予測するAIモデルを作った。このケースではいきなりAIを適用するモデルを構築せず、原因分析から行ったところ、再コールの大半は初回請求の誤解であることが判明。エージェント(人)への教育強化と店舗での初回請求書の手渡しを実施した結果、AI導入前に300万ドルの削減に成功。その後AIモデル導入で更なる最適化を実現したということです。この事例では、AIで何を解決するか、どう価値を生むか、どう早期に証明するかを分析することが鍵だったということです。

そして最後に、参加者から寄せられた数々の質問に対し、北林と川守田が答えるQ&Aセッションも設けられ、予定時間いっぱいまで議論と考察が続くなど、盛況のうちに本イベントは終了しました。

「ハロみん」ではみんなより気軽に、より深く繋がれるよう、無料のオンラインチャットルームをご用意しています。ぜひご参加ください。



「ハロみん」では今後も様々なイベントを予定しております。ぜひこちらからチェックしてみてください。





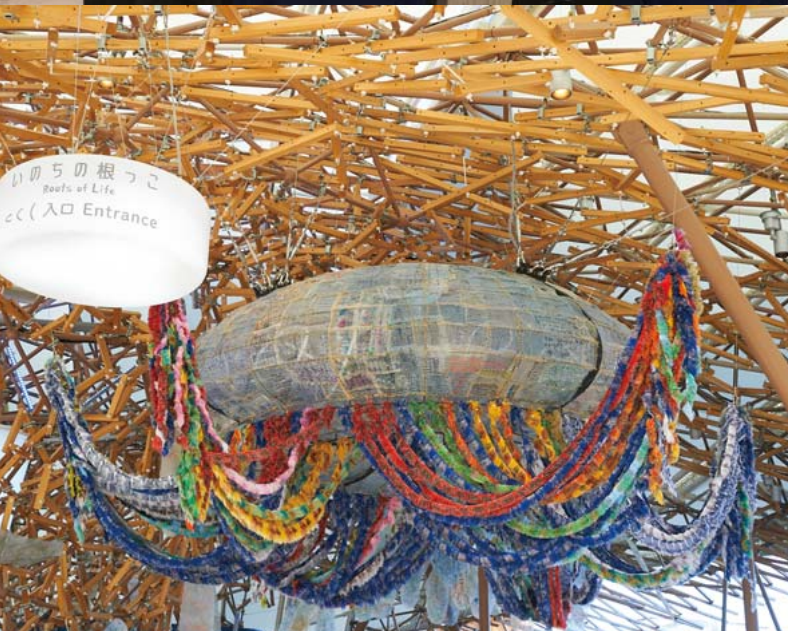
2025年4月13日から10月13日まで開催された大阪・関西万博(©Expo 2025)。

日立ソリューションズは、中島さち子氏がプロデュースする  
シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」にパートナーとして協賛。

インクルーシブな未来を描く本パビリオンを通じ  
日立ソリューションズも様々な活動を展開してきた。  
今回の協賛に至った背景や、ワークショップをはじめとする  
取り組みを紹介する。

インクルーシブな  
未来を  
創造する

Vol.4



協創の体験価値を多様な人々と共有する



## “幅広い年代が参加したワークショップで示された 「協創の楽しさ」「多様性の力」”

日立ソリューションズが「いのちの遊び場 クラゲ館」に協賛し活動した中でも代表的なイベントが、みんなで「未来のまち」を描くというワークショップである。9月の3日間に開催されたイベントには、子どもからシニアまで幅広い年齢層の476人が参加。中心的な役割を担った2人が、クラゲ館での体験を振り返る。

### 大阪・関西万博

#### 「クラゲ館」に協賛 1年をかけて準備

日立ソリューションズは2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のシグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」に、パートナーとして協賛しました。

後藤 日立ソリューションズは、持続可能な社会の実現に向けて、様々なステークホルダーとの協創やDXを通じて、SX (Sustainability Transformation) を推進しています。クラゲ館のプロデューサーを務めた中島さち子さん（株式会社 SteAm 代表取締役）は、「プレイフルで希望に満ちたインクルーシブな未来共創社会」を模索するという想い、そして多様な人々が協力して未来を創るという「協創」のコンセプトをお持ちです。

当社も、誰もが幸せに暮らせる社会をみんなで創りたい、との想いで

SXを推進してきたため、中島さんのコンセプトに強く共感しました。

野田 中島さんの想いや、世界中の企業や公的機関、教育機関、地域コミュニティを巻き込み価値を創出する姿勢は、協創でワクワクする未来を創っていくコミュニティ「ハロミン」をはじめ、めとした当社の活動と共通するものがあると思ひ協賛を決め、社内の体制づくりに取り掛かりました。

サステナビリティ推進本部のブランド・コミュニケーション部が中心となり、クラゲ館でどんな活動をするのか企画段階からほぼ1年をかけて準備しました。

### 多様な476人が参加

#### 「みんなでつくられて楽しかった」との声も寄せられた

具体的な活動の内容を教えてください。後藤 代表的な取り組みが、9月12、13、19日の3日間開催した「2050年の未来のまち」を描くワークショップ「になります。生成AIが描いた「未来のまち」の線画に、クラゲ館でのワークショップ参加者が色を塗っていきます。

1回のワークショップは10分程度で、前半ではSXや協創の考え方を説明し、後半で絵を彩ってもらいます。絵は全部で8枚。1枚当たり約60人が順番に手を入れて仕上げました。

中島さんは「ワクワク」「インクルーシブ」といった言葉を大切にされていますが、「未来のまち」はそうした価値を表現するプロセスでした。ワークショップは3日間で47回実施され、子どもからシニアまで幅広い年齢層の合計476人が参加しました。

野田 線画に色をつけるだけでなく、新しい要素を付け加えてくれる方も多かったです。参加者は自分が描いて次の人に引き継ぐので、回数を重ねるごとに絵の雰囲気もどんどん変わっていききました。それも面白い体験だったと思います。また、「みんなでつくられて楽しかった」という声も届いています。まさに協創の体験、協創の価値です。

大阪・関西万博を振り返って、どのような意義があったと思いますか。

野田 ワークショップの作品は期待以上、想像以上のクオリティになりました。「美術館に飾られても不思議じゃない」という声も聞こえてきて、「多様性の力」を実感しました。

後藤 アイデアを具体化する中で、あるいは現地での運営を通じて関わった方々とのつながりは、これからも大事にしたいと思っています。大阪・関西万博ではワークショップ以外にも、当社はインクルーシブをテーマにしたイベントなどにも参加しました。この経験を通じて得たものを、今後に活かしていきたいと思っています。



後藤 桃香  
Momoka Goto

日立ソリューションズ  
サステナビリティ推進本部  
ブランド・コミュニケーション部  
主任



野田 勝義  
Katsuyoshi Noda

日立ソリューションズ  
サステナビリティ推進本部  
シニアエバンジェリスト

# 活動REPORT

体験型プログラム  
「“2050年の  
未来のまち”を  
描くワークショップ」

“「いのちの遊び場 クラゲ館」と  
日立ソリューションズの取り組みの中から  
3つをピックアップしご紹介します”



子どもも大人も  
一緒に描く  
いのちを高める未来

3日間で計47回、のべ476人が参加したワークショップでは、子どもから大人まで幅広い世代の来場者が「2050年のいのちを高める未来のまち」をテーマに、生成AIで制作された線画アートの自由に色を塗り、協力して1つの作品を完成させ、計8つの春夏秋冬を表現した彩りや発想にあふれる作品が生まれました。

今回使用した線画アートは、日立ソリューションズが運営するオープンなコミュニティ「ハロみん」やSNSを通じて公募した435件の未来のアイデアをもとに、生成AIによって制作されたものです。

日立ソリューションズは、24年度より「DX by AX toward SX」をスローガンとして掲げ、持続可能な企業経営や社会の実現に向けて、AIの活用を通じたDXを加速させています。本ワークショップはSXの視点から、多様ないのちのつながりや環境との共生、テクノロジーと人間の調和について考える機会となり、参加者にワクワクするような新たな気づきを提供しました。また、当日は社員がボランティアスタッフとして来場者にクラゲ館の魅力を発信しました。

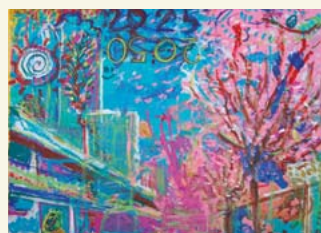
## ワークショップで完成した作品



当日の様子はこちら(動画)



当日のレポート記事はこちら







右から1番目が岸澤宏樹選手、右から2番目が新田佳浩選手

## シグネチャープログラム 「Inclusive JAM "We are ALL MINORITIES!!!"」

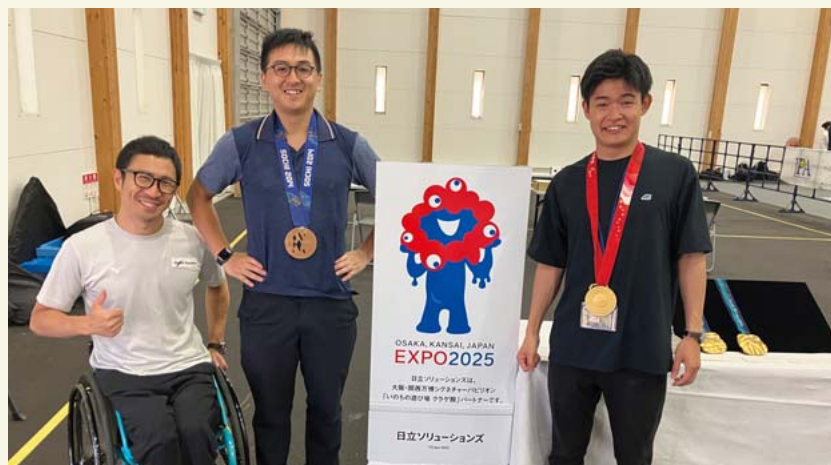
AURORA 新田佳浩選手  
岸澤宏樹選手が登場

多様ないのちが輝く  
未来社会の構築をめざす  
トークセッション

25年7月27日、大阪・関西万博「学びと遊び」テーマウィーク公式プログラムで、多様性と共生をテーマにしたクラゲ館のインクルーシブなトークイベント「Inclusive JAM "We are ALL MINORITIES!!!"」が、日立ソリューションズのプラスポーツチームAURORAの新田佳浩選手と岸澤宏樹選手が登場。中島さち子氏の「創造性・多様性・共創を重視した学びのあり方」の理念に共鳴し、障がいを持ち越えて挑戦し続けるAURORA選手の姿を通じて、共生社会の可能性を発信しました。本セッションは、過性のものではなく、未来の実装へとつながる出会いの場です。ここで議論された観点や問いを起点に次なる行動へと育て、多様な人々が混ざり合い、互いに学び合い遊び合いながら共生社会実現への道筋を描いていきます。



イベントのアーカイブは  
こちら(動画)



左から1番目が久保恒造選手

## ミズノ株式会社主催 「咲洲スポーツフェス 2025」

AURORA 久保恒造選手が参加

企業の枠を超え  
スポーツを通じた  
体験を支援

ミズノ株式会社が主催する「咲洲スポーツフェス2025」が25年8月20日、21日の2日間開催され、21日はクラゲ館の協賛をきっかけにAURORAがブースを出展。同チームから久保恒造選手が参加しました。本イベントは、地域活性化と子どもたちの心と体を育むスポーツスクール体験をコンセプトに開催。当社ブースではメダルの展示やレーザーライフル射撃体験を実施しました。



©Expo 2025

日立ソリューションズは、  
大阪・関西万博シグネチャー  
バビリオン「いのちの  
遊び場 クラゲ館」パー  
トナーです。

バビリオンのプロデューサーである中島さち子氏の「創造の喜びで世界中を繋ぎ、プレイフルで希望に満ちたインクルーシブな未来『共創』（創造性の民主化）社会を模索する」という想いや、世界中の企業や公的機関、教育機関、地域コミュニティを巻き込み価値を創出するというインクルーシブな考えや姿勢に共感し、協賛いたします。当社としてもインクルーシブな未来に向けて様々な取り組みを進めています。(株)日立ソリューションズ

# AIエージェント全盛の今、 求められるHRの役割と使命

**H**R\*テクノロジー領域に特化した世界最大級の業界イベント「HR Tech Conference 2025」が9月16日から3日間、米国ラスベガスで開催されました。今年のテーマは「Be the Change (変化の担い手になれ)」。会期中はキーノート、ブレイクアウトセッション、EXPO展示、スタートアップのピッチコンテストなどが開催されました。人事部門の管理職や実務担当者、経営層を中心に、7200人以上が参加しました。

HRの役割には、採用、研修、評価、報酬管理、労務管理、退職手続きといった従業員のライフサイクル管理に加え、組織開発や従業員体験(EX)向上といった人的資本を軸とした取り組みが含まれます。

ただし、カンファレンスで語られていたHRテクノロジーの背景を理解するには、日米でHRの前提条件が大きく異なる点(図1)を押さえておく必要があります。

日本では新卒一括採用とジョブローテーションによるジェネラリスト育成が一般的で、長期雇用を前提とした人財マネジメントが中心です。一方、米国は通年のジョブ型採用が前提で、明確に定義された職務に対し、合致した人財を採用します。さらに、企業と従業員が双方の意思で雇用関係を自由



会場エントランスに設置された大型ロゴ。参加者が記念撮影をするスポットとして常に賑わっていた

に終了できる“at will”の慣行があるため、雇用は流動的です。そのため、米国企業は採用活動を継続的に行う必要があります。同時にレイオフ時の補償や退職プロセスの設計も実務に組み込まれています。こうした構造が、採用の効率化やEX向上への投資を後押しし、HRテクノロジー市場の拡大につながっています。

共通のキーワードはやはりAIエージェント

## 本

イベントのアジェンダを分析すると、AI関連が全体の4割程度を占めており、注目度の高さがうかがえます。Josh Bersin氏が示したAIによる仕事再設計の4段階モデル(アシスタント→自動化→マルチエージェント→自律実行)は、AIがどこまで業務を担い、働き方の再設計がどこまで進んでいるかを示すフレームであり、今年の議論を整理する上でも有効でした。この4段階モデルを軸に見ると、昨年と今年の違いがより明確に浮かび上がります。

昨年は「AIエージェントの波が来る」という構想レベルの紹介にとどまっていましたが、今年は採用・育成・従業員対応などで実際に成果を伴う具体事例が多く共有され、限定



的な試行導入から組織横断で本格活用へ移行しつつある印象でした。

一方で、AI活用が広がるほど新たな課題も顕在化します。特に採用領域では、候補者がAIを用いて応募書類や面接回答を生成するケースが増える中で、スキルや経験の真正性、本人性を確認するためのスクリーニングやディープフェイク検知技術にも注目が集まっていました。AIの高度化に伴い見抜く側の技術も発展している点が印象的でした。

## 人間中心のアプローチと変革推進者としてのHR

**イ** ベントを通して語られたのは「AIは人間を代替するものではなく、人間の能力を拡張する」というメッセージです。事務処理をAIに任せ、人はよりクリエイティブな仕事に集中できるという考え方です。ただ、現場ではAIが人間を「補完する存在」であるという前提だけでは済まない現実もあります。効率化が進めば、一定の業務は縮小し、AIに仕事を奪われるのではないかという従業員の不安も生まれます。だからこそ、再配置とリスキリングの仕組みを整える必要があります。

AIを敵ではなく、「協働の相手」として受け止めてもらうには、人間中心のアプローチで仕事を再設計する必要があります。その推進役がHRです。各セッションでは、経営戦略とEXの双方を高めつつ、AI前提の新しい働き方や組織運用モデルを早急に整える重要性が強調されました。

キーノートではIBM社のCHRO（最高人事責任者）のNickle LaMoreaux氏が登壇し、判断力・創造力・協働力といった人にしか担えない価値を、AI時代の組織においても中核的な役割を果たすものとして明確に述べていました。イベント全体のテーマ「Be the Change」には、HR一人ひとりが変化の主体となり、未来の働き方をそのものを形づくる

図1 HRに対する日米の違い

観点	日本	米国
雇用観	会社へのメンバーシップ型で、長期雇用前提	ジョブ型で、転職が一般的な柔軟な雇用慣行
採用	新卒一括でポテンシャルを重視	通年採用でスキル・即戦力を常に確保
職務・配置	幅広く経験を積み総合職育成（ジョブローテーション中心）	職務が明確で、ミスマッチなら早期に再配置や採用見直し
評価・報酬	年功や等級制度が残る傾向	職務価値や成果、相場に基づいて決定
退職・整理	解雇は厳しく制限され、まず希望退職を募る	RIF（人員削減）やレイオフが日本より発生しやすく、退職補償（セベランス）が整備されている
HRの役割	労務・制度運用の比重が大きい	事業戦略に沿って人材配置を設計する戦略的パートナー
労働時間管理	全従業員に労働時間の把握義務があり勤怠管理が厳格	non-exempt（時給制）のみ記録義務、exemptは成果重視で勤怠管理は限定的
テック投資の重心	勤怠・給与・労務の効率化	採用（TA）やスキル領域、従業員体験（EX）への投資が中心

存在であるという意味が込められています。企業と従業員の持続的成長を実現するかに取りこそこが、HRの次なる使命だといえます。

## HRテックが一堂に会するイベントでの気づき

**E** XPO展示で印象的だったのは、本イベントの中心テーマではない「退職（オフボーディング）」領域に、返品管理の仕組みが転用されていた点です。テレワークの定着により退職者のIT機器回収が課題化する中、Eコマース向けに返品管理システムを展開する企業が、既存の返品フローをそのまま退職プロセスに応用し、HR向けのITアセット回収サービスを提供していました。返品文化と転職文化が根づく米国だからこそ成立した発想であり、HRテックと社会文化が結びつく好例だと感じました。

米国のHRテクノロジーは、文化や前提の違いから日本にそのまま適用するのは難しいものの、働き方の再設計や人材活用の示唆は多く得られます。本イベントでは何度度もAIを前提に仕事の進め方を見直し、人がより価値を発揮しやすい環境を整える方向性が示されました。日本は依然として売り手市場にありますが、雇用構造の変化は避けられません。米国の事例から学べるのは、再配置とリスキリングを計画的に進める重要性であり、AIとの共存を前提に人をどう活かすのか、そのためのHRの「設計力」がこれから一層問われていきます。



川野 美里  
Misato Kawano

Business Development  
Specialist  
Business Development and  
Alliances Group (BDAG)

2020年に日立ソリューションズ入社後、調達本部にて他社製品の購買業務を担当。2024年4月より、海外アライアンス契約業務に従事。2025年5月からHitachi Solutions Americaにて業務研修中。

第6回

# 量子コンピュータが 暗号を解読する 時代を前に求められる 耐量子暗号への準備

**耐量子暗号とは、どのようなものですか。**

**人見** 現在の暗号の仕組みとしては、公開鍵暗号方式が広く用いられています。ネットバンキング、ECで使われるクレジットカード決済なども同様です。ビジネスや暮らしの根幹を支える暗号方式として定着しています。従来のコンピュータを使ったサイバー攻撃に対して、公開鍵暗号方式は十分な安全性が確保されていると考えられています。ただ、今後量子コンピュータが実用化されると、暗号を突破される可能性があります。つまり、機密情報や決済情報などが危険にさらされるということです。そこで、量子コンピュータによるサイバー攻撃にも耐えられる強固な暗号方式が求められるようになりました。

**量子コンピュータ上で動く暗号方式、という意味ではないのですか。**

**人見** ときどき誤解される点です。耐量子暗号は量子コンピュータからの攻撃に対処するもので、その暗号は従来コンピュータ上で動作します。

**なぜ現段階で耐量子暗号の実用化に向けた準備が必要なのでしょう。**

**人見** 準備すべき理由は3つあります。第1に、「Harvest Now, Decrypt Later (HNDL)」という攻撃手法があります。とりあえず高価値と思われる情報を（暗号化された状態で）収集し、量子コンピュータが普及してから解読しようという方法です。特に金融や医療などの分野で、長期的な保護が必要な情報は多くあります。こうした情報を守るためには、早いうちに対策を考えておかねばなりません。

第2に、暗号インフラの整備には時間がかかります。現行の公開鍵暗号の場合、インフラ整備には20年ほどかかりました。

第3に、規制当局の動きがあります。耐量子暗号の標準化を主導する米国の「NIST（米国立標準技術研究所）」、日本では暗号に関する政府系のプロジェクト「CRYPTREC」などが、2030年までに公開鍵暗号の一部非推奨、35年までにすべてを使用禁止にすると発

量子コンピュータが普及すれば、既存の暗号は破られるのではないかと。その解決策として注目されているのが、耐量子暗号である。世界各国の政府系機関も、耐量子暗号の確立に向けた施策を打ち出している。こうした動きとともに、日立ソリューションズの耐量子暗号への取り組みについてキーパーソンに聞いた。

表しました。他の先進諸国も、概ね歩調を合わせています。

クリプトアジリティとは何か？  
金融庁の金融機関への「要請」

**耐量子暗号における、日立ソリューションズの取り組みについてお聞きます。**

**馬場** 研究企画部は近い将来の普及が見込まれる新技術について評価しています。現在の活動としては大きく2つ。まず、耐量子暗号のアルゴリズムを実装したライブラリの評価です。ライブラリは暗号システムを構成するソフトウェア部品で、すでに様々な企業や団体が公表しています。それらは各社各様で、性能や安全性などの評価は固まっています。また、確立した評価手法もないのが現状。私たちは評価手法づくりとともに、ライブラリの評価も進めています。もう1つは、クリプトアジリティの獲得に向けた調査・検証です。クリプトアジリティ



Shota Baba

馬場 昭太

日立ソリューションズ  
経営戦略統括本部  
経営企画本部 研究企画部  
技術



Makoto Nakano

中野 信

日立ソリューションズ  
セキュリティソリューション事業部  
セキュリティプロダクト本部  
セキュリティプロダクト第3部  
第2グループ グループマネージャ



とは、既存の公開鍵暗号方式を柔軟に変更できる能力のこと。耐量子暗号に移行するためにどんな準備が必要か、移行の方法論などを含めて検討しています。

**中野** セキュリティソリューション事業部は、お客様に対する具体的な支援を考えています。

例えば、金融庁は先ごろ、金融機関に対して耐量子暗号への対応に着手するよう要請しました。クリプトアジリティの獲得にしても、体力のある大手は別にして、地域金融機関などにとってはハードルが高い。こうした課題の解決に向けて、私たちは30年以降を見据えてお客様を支援しています。当社は長年、情報漏洩防止ソリューション「秘文」を提供しており、暗号化技術への知見を蓄積してきました。また、セキュリティコンサルティングの実績も豊富です。こうした知見や経験を最大限に活かしたいと考えています。

### 具体的なサービスについてうかがいます。

**中野** 25年10月、「耐量子計算機暗号への移行に向けた支援サービス」の提供を開始しました。現状のシステムでどこに、どのような暗号技術が使われているかを洗い出し、リスク評価を実施した上で、クリプトアジリティを考慮した移行方針を提案するサービスです。「洗い出し」の過程ではオンプレミス環境だけでなく、クラウドにおける暗号処理の現状を把握する必要があります。その際、クラウドシステム内の暗号化の状態やアルゴリズムを一覧化する「Fortanix」の技術が有効です。Fortanixは米国のスタートアップで、当社との間で販売提携を結んでいます。この点も当社の強みの1つです。

## 不透明な要素が多い 耐量子暗号実用化への道

### 耐量子暗号の実用化に向けた課題についてうかがいます。

**馬場** 現時点では、量子コンピュータを用いた攻撃に本当に耐えられるかどうかを検証することはできません。そもそも暗号解説に使えるような量子コンピュータはまだ存在しないので、実際に検証することができないのです。テストができない以上、「耐量子暗号なら安全」と言い切れることは困難です。

**中野** クリプトアジリティを獲得するための技術も、確立しているとは言えません。現状、公開鍵暗号方式はファイアウォールやウェブサーバなど様々な機器、ソフトウェアに利用されていますが、こうした製品を扱う企業間で耐量子暗号への移行に関する方針が統一されているとは限りません。各社のやり方を寄せ集めた形でクリプトアジリティを実現できるのか、不透明なところがあります。また、性能面では十分だとしても、いかに運用するかという課題も残ります。企業のクリプトアジリティを支援する立場としては、走りながら考えるしかないと思っています。

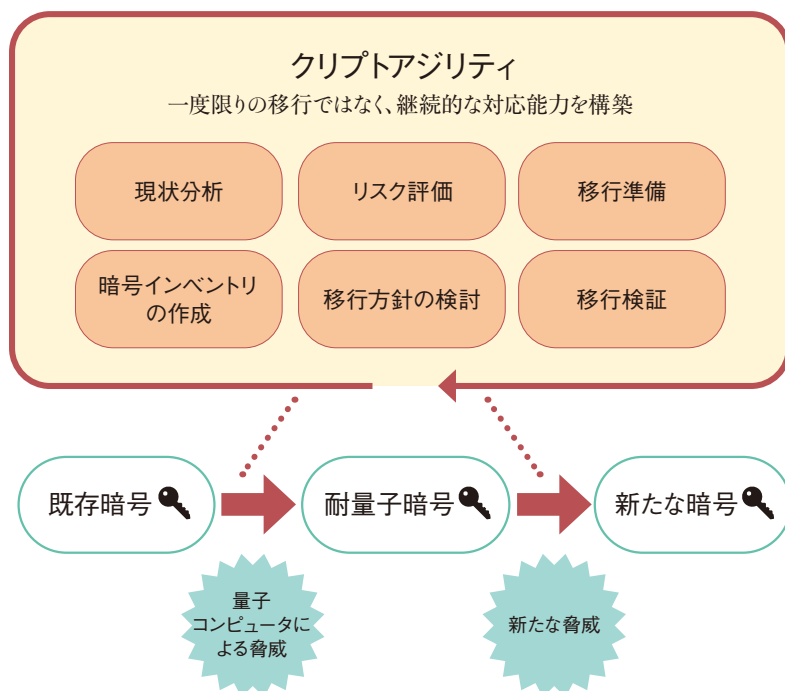
### 日立ソリューションズの取り組みについて、今後の展望をお聞かせください。

**中野** これまで、企業のセキュリティ対策の節目には、法規制などの動きがありました。金融分野では、金融庁の要請を受けて各金融機関の危機意識が高まっています。こうしたお客様の

現場の声を聞きながら、セキュリティ専門家として対策を考え、ソリューションを進化させていきたいですね。

**馬場** 既存の暗号システムのアセスメントや情報資産の整理から、耐量子暗号への移行プロセスまでをトータルでサポートしていきたい。データの価値がますます高まる時代、当社は耐量子暗号を注目分野として位置づけ、取り組みを強化していく考えです。

## 暗号移行とクリプトアジリティ



暗号移行時にはクリプトアジリティが必要になるが、一度獲得、持続することで新たな暗号への移行も柔軟に対応することができる

### 人見 晋貴

日立ソリューションズ  
経営戦略統括本部  
経営企画本部 研究企画部



Shinki Hitomi

## 日立ソリューションズの サーキュラーエコノミーの 取り組み

### CO<sub>2</sub>排出量を 削減する上で

### 効果的な水平リサイクル

日立ソリューションズはペットボトルの水平リサイクルに取り組んでいます。まず、水平リサイクルがどういったものか教えてください。

下谷 ペットボトル水平リサイクルは使用済みのペットボトルを新しいペットボトルに再生することで、「ボトル・ボトル」とも呼ばれます。2024年度の日本のペットボトルリサイクル率は85.1%<sup>\*1</sup>で、海外に比べて高い水準です。ただ、ペットボトルの多くは繊維など別の製品にリサイクルされ、水平リサイクル比率は37.7%<sup>\*1</sup>にとどまっています。水平リサイクルによるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果は大きく、清涼飲料業界はこの数値を高めようとしています。原油からペットボトルを生産する場合と比べて、水平リサイクルはCO<sub>2</sub>排出量を63%<sup>\*2</sup>削減することができるといわれています。

水平リサイクルに取り組んだ理由

## パートナー探しの困難を乗り越え 本社オフィスで始まった ペットボトルの水平リサイクル

を教えてください。

下谷 新しいビジネスの創出を検討する事業部門が、循環型社会の実現にむけ、資源の有効活用と環境負荷低減のための活動として着目したのがきっかけです。まずは当社の本社ビルでやってみようとなり活動を開始しました。活動では、あまりコストをかけずに品質のよいものを回収できることを目標として、「ナッジ」と言われる人々の自発行動を促す手法を取り入れました。

活動のポイントをうかがいます。

下谷 水平リサイクルで重要なのは、キャップとラベルを外し、飲み残しの状態の「きれいなペットボトル」で回収することです。そのためには、



下谷 昇平

Shouhei Shimotani

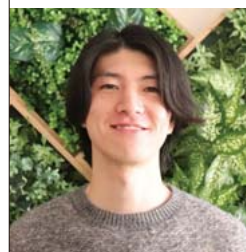
日立ソリューションズ  
経営戦略統括本部  
サステナビリティ推進本部  
サステナビリティ経営部  
部長代理



平賀 保男

Yasuo Hiraga

日立ソリューションズ  
経営戦略統括本部  
サステナビリティ推進本部  
サステナビリティ経営部  
マイスター



城之内 水色

Mizuhiro Jonouchi

日立ソリューションズ  
人事総務本部  
総務部 総務グループ

一人ひとりが水平リサイクルの意義を理解し、カーボンニュートラルへの小さな貢献としての意識を持つことが重要です。協力を得るため、活動に先立つ新しいビジネスの創出を検討する事業部門をはじめとした関係部門が集まり、約半年にわたり議論を重ねました。

活動の前後で  
「きれいなペットボトル」は  
27%から95%へ

一人ひとりの協力を得るための工夫を教えてください。

下谷 例えば、ペットボトルを捨てる場所は単なるゴミ置場ではなく、「リサイクルステーション」と名付けてレ

イアウトなども変更しました。社員の意識への働きかけも重要です。周知活動としては、ポスターを作成してリサイクルステーションに掲示したり、社員がイントラネットにアクセスする際、自動的に出てくるポップアップ画面でも水平リサイクル活動の情報を表示したりしました。後のアンケート調査で分かったのですが、最も効果的だったのは使用済みペットボトルを回収する中間処理業者を取材した動画です。プロジェクトメンバーが現場で撮影し制作しました。キャップとラベルを外すというひと手間をかける意義が、動画から伝わったのだと思います。

活動でどのような成果が得られましたか。

平賀 活動前、水平リサイクルに適したきれいな状態のペットボトルは約27%でした。活動後、この数値が約95%に上昇しました。一般に、廃ペットボトルは事業系と自治体系に分かれます。前者はオフィスなどで排出されるペットボトル、後者は家庭で使われたペットボトルを自治体が集めたもので

\*1 PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2025」より

\*2 協栄産業様調べ



す。自治体が集めるものはきれいで、資源ごみとしての品質が高い。一方、事業系は自治体系と比べて、品質は低い。その事業系で約95%を達成し、大きな手応えを得られました。

### 水平リサイクルに向けた次のステップについてお聞きます。

**平賀** 廃ペットボトルは、収集事業者→中間処理事業者→再生処理事業者と流れていきます。この流れを確立しなければ、水平リサイクルはできません。  
**城之内** お付き合いのある事業者に打診したところ、「対応は難しい」との返答でした。その後、多くの事業者に問い合わせを行いました。適切なパートナーを見つけるまでには相当な時間を要しました。

**平賀** 事業者を訪問した際には、社内での活動ときれいなペットボトルが約95%という結果を説明したのですが、「事業系ペットボトルはきかない」というイメージが先行し、門前払いされるケースが多々ありました。ようやく、「自治体の集めるものと同じくらい品質です」と言ってくれるパートナーが見つかり、協力を得られました。

## 水平リサイクルにより年間6トンのCO<sub>2</sub>排出を削減

水平リサイクルの本格実施の効果と今後の展望を教えてください。

**下谷** 本格的には25年10月にスタート

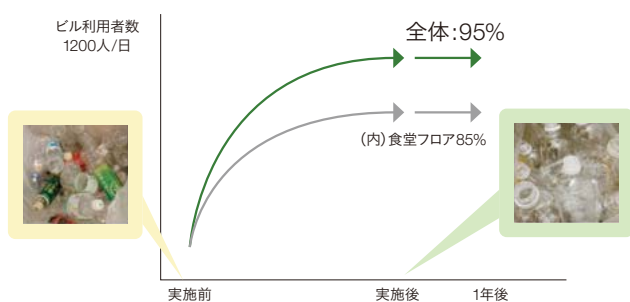
したばかりで、まだ結果は出ていません。ただ、24年度に本社ビルで排出されたペットボトル総量から推計すると、原油からペットボトルを生産する場合と比べて年間約6トンのCO<sub>2</sub>削減効果が期待できます。ペットボトル水平リサイクルは、環境負荷を低減し資源循環を実現するものです。これは当社の推進するSXに沿った取り組みです。今回の経験をもとに事業化に向けた検討も進むと思います。

**平賀** 政府の規制などを含め、日本社会では廃プラスチックをできるだけ出さない、あるいはリサイクルする方向で様々な取り組みが進められています。プロジェクトを通じて接した事業者の方々からは、「ボトル100ボトルにもっと取り組みたいのだが」という話をよく聞きました。廃ペットボトルの品質がネックになって、やりたくてもできない現状があるということ。こうした課題の解消に向けて、意味のある一歩を踏み出せたと思っています。

**城之内** 消費者の立場だと、生活の中で「環境」を意識して行動するのは難しい。ただ、リサイクルステーションで実施したような工夫で、行動が変わることもあります。今回、生活の中で自分事としてサステナビリティを捉える重要性を学びましたし、こうした取り組みが広がっていけばうれしいですね。個々人が自分事として考える上でも、有意義な取り組みだと思います。

### 自社本社ビルでの活動

#### 水平リサイクル可能なペットボトル\*3回収率の推移



水平リサイクル率

95%

1年経った  
いまま水準をキープ!

ウェルビーイング向上

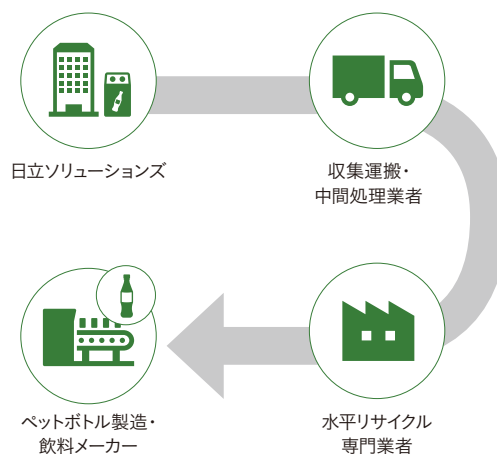


CO<sub>2</sub>削減効果

6t/年\*4

### 水平リサイクルルートの確立

#### 専門業者の協力により水平リサイクルのルートを確立



低コスト高品質な水平リサイクルでCO<sub>2</sub>削減と従業員のウェルビーイング向上に貢献



\*3 キャップとラベルを外して飲み残しがないペットボトル

\*4 原油からの生産と比べ63%削減（協栄産業様調べ）を適用した場合

# Prowse Info

News & Topics

Keyword ▶ 社内依頼管理

## 「行動変容を促すデザイン」でUIを刷新した「グループタスク リマインダーサービス」 従業員の83.8%が依頼対応に対するポジティブな変化を実感

株式会社日立ソリューションズは、eラーニングや社内調査など、増え続ける社内依頼をイントラサイト上で通知し、完了するまで自動でフォローする「グループタスク リマインダーサービス」のユーザーインターフェース(UI)を刷新し、提供しています。

本サービスは、当社でも社内活用しており、メールなどで依頼をしていた導入前の回答率を、67%から98.2%<sup>\*1</sup>まで上昇させた実績を持ちます。新UIは、さらなる改善策として、期限内の回答率向上を目的に、ゲーミフィケーションなどの行動科学に基づくUI設計の手法の1つである

ナッジ<sup>\*2</sup>をもとに開発しました。

新UIは、職場内での実施率や未実施の人数が可視化され、従業員が期限内に回答すると、メダルやサンクスメッセージが表示されます。対応を滞留させがちな従業員でも自発的に回答できるよう、行動の変化を促すことができ、依頼発信者や管理者の負担が軽減されます。従業員アンケート<sup>\*3</sup>では、83.8%の従業員が「依頼対応に前向きになった」と回答しています。

当社は今後も、ITを活用したガバナンス強化や生産性の効率向上を支援していきます。

### Data

■「グループタスク  
リマインダーサービス」



\*1 従業員ら約6000人を対象とした、2022年4月から2023年3月の実績

\*2 ナッジとは「肘で軽く突く」という意味。行動経済学に基づく手法で、ユーザーの選択の自由を保ちながら、科学的分析に基づいて、より良い選択を「そっと後押し」する行動変容事例

\*3 新UIは2025年2月13日から従業員ら約6000人に適用。5月に従業員アンケートを実施し、4562人から回答を回収

### グループタスク リマインダーサービスの新しいイメージ

**TODOバー**：社内ポータルサイトのトップページのTODOバーに自分への依頼だけが付箋で表示される



実施状況を天気マークで表すことで  
自分の実施状況が見える

部門内実施率の表示で  
「今やろう」という気持ちを高める

部署内未回答者  
2人

部署内実施率  
75%



## ニュース&トピックス

日立ソリューションズの  
今を伝える  
情報コラム

### Keyword ▶ ランサムウェア

## ランサムウェア感染後でも、被害拡大の抑止と暗号化されたデータの自動復号で事業継続を実現する「Halcyon」を提供開始

被害が増え続けるランサムウェアに対して、日本政府は、企業側に対策と事業継続計画の強化を促しています。また、企業側もランサムウェアの被害は、事業中断だけでなく、顧客や取引先からの信頼失墜など、大きな経済的損失に直結します。そのため、攻撃手法が高度化していく中、対策の重層化が不可欠です。

そんな中、株式会社日立ソリューションズは、Halcyon Tech, Inc.と販売代理店契約を締結しました。破壊活動の阻止から被害拡大の防止、暗号化されたデータの自動復号までをトータルに実現する、ランサムウェア対策に特化したプラットフォーム「Halcyon」

を提供しています。

本プラットフォームは、侵入してしまったランサムウェアに対して、AIによる多層防御、データ流出防止、迅速な全体復旧まで、次々と対応します。最新の独自技術によって、暗号化の開始検知と同時に暗号化キーの傍受を行うことで、自動復号も実現しました。企業は本プラットフォームにより、感染後の事業継続が可能となり、被害の最小化を図れます。

当社は、最新のセキュリティ動向を踏まえたソリューションの提供を通じて、企業や社会のサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)実現に貢献していきます。

### Data

■「Halcyon」



### Keyword ▶ ERP刷新

## ロート製薬がMicrosoft Dynamics 365でグローバル統合の新業務基盤を構築

グローバルにグループ会社を持つロート製薬株式会社では、各国で個別に導入したERPが業務基盤として利用されており、グループ各社からの情報収集と、グループ全体の経営状況の可視化に多くの時間と手間を要していました。

これらの課題を解決するため、ロート製薬は株式会社日立ソリューションズの「Microsoft Dynamics 365」(以下、「Dynamics 365」)を導入。主要海外グループ会社30社の会計やサプライチェーン関連データを集約する2層構造のERPを軸に、グローバル経営情報を可視化する業務基盤を構築しました。

ロート製薬は、グループ各社の既存ERPをTier1(第1層)とし、その上に新たにTier2(第2層)のERPを「Dynamics 365」で構築。この仕組みにより、各社が個別に導入した既存ERPの運用への影響を抑えながらシステムのサイロ化を解消し、主要海外グループ会社のデータを統合しました。また、BIレポート基盤に「Fabric」を採用し、グループ各社で形式が異なるデータの加工・連携を自動化し、分析までの一連のプロセスを同一プラットフォーム上で実現しました。

当社は今後も、製造業のグローバル展開とDXを両輪で支援することで、企業のSXに貢献します。

### Data

■「Microsoft Dynamics 365 ソリューション」



## Keyword ▶ アイデアコンテスト

### 生成AIの社内利用率100%をめざして 開催したアイデアコンテストで、1000件超の応募

株式会社日立ソリューションズは、AIを駆使して業務を変革するAIトランスフォーメーション（AX）の全社での推進活動の一環として、生成AI活用アイデアコンテストを開催しました。日立ソリューションズグループより1000件を超える応募があり、9月3日に実施された最終審査会では、社長特別賞1件を含む優秀な事例やアイデア10件を選出しました。

当社は、2024年度より「DX by AX toward SX」をスローガンとして掲げ、持続可能な企業経営や社会の実現に向けて、AIの活用を通じたDXを加速させています。具体的には、専門組織を設置し、お客様に提供するソリュー

ションの高度化、開発や業務の効率向上、リスク管理とガバナンスの3つの観点から、AI、生成AI、AIエージェントの活用を全社で促進しています。アイデアコンテストは、生成AIを当たり前に使う企業風土の醸成と、生成AIの社内利用率100%をめざす施策として開催しました。社長特別賞は、輸出管理業務のキャッチオール規制審査で活用された自律型AIエージェント（エージェンティックAI）です。その他の受賞案件もAIエージェント化を進め、社内実証やお客様への提供も視野に入れています。（株式会社日立ソリューションズ）

#### Data

■「日立ソリューションズにおける生成AIの取り組み、提供ソリューションについて」



## Keyword ▶ サプライチェーンマネジメント

### 日立ソリューションズ東日本が「第15回世界SCM競技会」日本予選を開催 2024年度はロジスティードが世界優勝、旭化成が3位・5位の快挙

株式会社日立ソリューションズ東日本は、サプライチェーンマネジメントの世界大会である第15回世界SCM競技会「Global PRO Challenge 2025」(以下GPC2025)の日本予選を開催しました。

日立ソリューションズ東日本は2010年から世界競技会を開催しており、日立ソリューションズ東日本自体は18年に初参加、その後はTFC\*を国内提供しつつ国内チームを競技会に送り出し、20年からは日本国内予選を開催することで選抜チームが着実に世界でも実績を伸ばしています。

24年に開催された第14回世界大会では、日本予選を勝ち抜いて参加し

たロジスティード株式会社が見事、初の世界優勝を果たし、旭化成株式会社も第3位・第5位に入賞するという快挙を達成しました。これらの成果は、日本企業のサプライチェーンマネジメント力が世界水準にあることを証明するものであり、国内外から高い評価を受けています。

日本予選に参加するには、あらかじめSCM基礎コースやSCMビジネスシミュレーション研修を受講いただく必要があります。これから参加を検討いただく場合、次回2026年の予選・大会をめざしていただくことになります。（株式会社日立ソリューションズ東日本）

#### Data

■「SCMビジネスシミュレーション GPC2025 日本予選」



\* The Fresh Connection：オランダ Inchainge B.V.が開発したビジネスシミュレーション



## ニュース&トピックス

日立ソリューションズと  
日立ソリューションズのグループ会社の今を伝える  
情報コラム

Keyword ▶ マルチクラウドプラットフォーム

### 「金融アプリ統合サービス基盤」を提供開始 地域における金融サービスのDX化をマルチクラウド型サービスでサポート

少子高齢化や人口減少、産業の縮小など、地域社会が直面する課題は多岐にわたります。地域金融機関には、資金提供に加え、経営改善や事業再生など幅広い支援が求められています。これらを実現するためには、自治体や企業との情報連携を可能とするクラウド活用が重要と考えていますが、クラウド環境構築を個々の地域金融機関が単独で対応するには大きな負担となっています。

こうした背景を踏まえ、株式会社日立ソリューションズ西日本は、地域金融機関の金融DX支援の取り組みをこれまで以上に強化するため、金融業務関連サービスを安全かつ柔軟に利用できるマルチクラウドプラットフォーム

「金融アプリ統合サービス基盤」を構築し、本基盤にて各種サービスの提供を開始しました。

「金融アプリ統合サービス基盤」は、高度なセキュリティを確保しつつ、各種サービスとの柔軟な連携に対応します。また、ローコード開発により、短期間かつ低コストでの開発を実現します。日立ソリューションズ西日本は、「金融アプリ統合サービス基盤」において、第一弾として「依頼伝票電子化サービス」の提供を開始し、今後も安価かつ安全なクラウドサービスを順次提供し、地域における金融サービスのDX化を支援していきます。(株式会社日立ソリューションズ西日本)

#### Data

■「金融アプリ統合サービス基盤」



Keyword ▶ 機能安全

### 機能安全規格に対応した高品質な組込み機器開発を支援 OSベンダーと連携したトータルソリューションで安全性と品質を両立

自動車や二輪車向けの組込み機器開発現場では、機能安全規格への準拠が不可欠となる一方で、プロセスの標準化や機能安全開発手法の確立が進まず、OEMやTier1からの高度な要求に十分対応できないという課題が浮き彫りになっています。

株式会社日立ソリューションズ・テクノロジーは、こうした課題解決に向けて、機能安全対応をトータルにサポートします。豊富な経験を持つエキスパートが、コンサルティングから、BSP(Board Support Package)の移植・開発、アプリケーションの開発・評価、システムチューニングまで、お客様のニーズに合わせた最適な

セーフティ支援を提供します。

さらに、INTEGRITYやQNXなど、機能安全の国際規格に準拠したOSへの移植や周辺ドライバの開発も、各OSベンダーと連携してサポートします。各社の高度な専門技術を活かし、自動車市場などにおける機能安全規格準拠OSを基盤としたソリューション構築を強力に支援します。

今後も日立ソリューションズ・テクノロジーは、OSベンダーやデバイスベンダーとのパートナーシップを強化し、組込み機器製品開発の安全性と品質向上に貢献していきます。(株式会社日立ソリューションズ・テクノロジー)

#### Data

■「機能安全ソリューション」



## 人的資本経営やAI活用の取り組みを掲載した「サステナビリティ・アクションブック2025」を公開

日立ソリューションズは、ステークホルダーの皆様へのコミュニケーションツールとして、主に2024年度のSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）の活動をまとめた「サステナビリティ・アクションブック2025」を2025年10月に公開しました。

今回で3年目となる「サステナビリティ・アクションブック2025」では、人的資本経営やAI活用の取り組みを新たに掲載しました。また、前年に引き続き、マテリアリティを軸に様々な活動をマッピングし、当社グループのグローバルでの情報開示も継続しています。あわせて、これまで環境、社会、経営ガバナンスのESGの観点で構成していたサステナビリティサイトを、マテリアリティに沿った構成へと変更しました。



「サステナビリティ・アクションブック」  
はこちら



日立ソリューションズのサステナビリティ

当社は、2024年度より「DX by AX toward SX」をスローガンとして掲げ、持続可能な企業経営や社会の実現に向けて、AIの活用を通じたDX

を加速させています。今後も様々なステークホルダーの皆様と新たな価値を協創し、より幸せな社会の実現に貢献していきます。

## プロ野球公式戦「東京ヤクルト×読売ジャイアンツ戦」にて「日立ソリューションズデー」を開催

2025年8月19日、日立ソリューションズは、スポンサー契約を結ぶ東京ヤクルトスワローズとコラボレーショ

ンしたプロ野球公式戦イベント「日立ソリューションズデー」を開催しました。本イベントは2010年よりお客様を

招待するイベントとして開催（2020～2021年はオンライン形式）しています。今年はお客様やパートナー企業・当社社員とご家族も含めて、総勢300人規模のイベントとなりました。

当日は、会場となった明治神宮野球場の大ビジョンに、「子どもの夢」をコンセプトに作成した動画を上映し、地球環境や社会課題への思いを、応援の熱気とともに届けました。

試合開始前には、森田社長による始球式や、当社社員による選手への花束贈呈式が執り行われました。選手と入場するスタメンキッズやグラウンドでの応援など、子どもたち向けのプログラムも用意し、ご家族で楽しめるイベントとして、笑顔あふれる一日となりました。



日立ソリューションズ SX情報局のSNSにておすすめ記事を投稿中！ ぜひフォローをお願いします。



日立ソリューションズSX情報局の  
X (旧Twitter) はこちら



日立ソリューションズSX情報局の  
Instagram はこちら





## Topic Content

注目記事

過去号から、今注目すべきトピックスに合った  
おすすめの記事をご紹介します。

【プロワイズ Vol.77】

『「稀人×企業」の架け橋となり新しい価値を生む  
仕掛け人」稀人ハンター 川内イオ氏



過去号で掲載した  
記事はWEBで  
ご覧いただけます。

## Readers' Voice

読者の声

プロワイズに対する読者の声を紹介します。

御誌を長い間拝見していますが、最近の御誌の  
改革ぶりには驚いています。「ITとマネジメントの  
融合を考えるオピニオン情報誌」の名の通り、素  
晴らしい冊子です。

(建設業 N様)

気づけば仕事に直結する情報にのみアンテナが  
働いていますが、アンテナの向きを変えてくれる  
本誌の存在はありがたいです。

(製造業 N様)

最新の技術動向を、実際に第一線で担当されて  
いる方が丁寧に分かりやすくお話されており、  
毎回、楽しく拝読しています。

(不動産業 I様)

## Back Issues

バックナンバー



Vol.77  
Autumn 2025

特集 連鎖させる

平野未来氏、半田浩晃／  
川内イオ氏／大武美保子氏／  
21世紀のものづくり③ ネット造形 他



Vol.76  
Summer 2025

特集 加速させる

新井鷗子氏／  
中尾隆一郎氏／  
21世紀のものづくり⑦ ねぶた 他



Vol.75  
Spring 2025

特集 デザインする

GAKU氏／  
武田俊太郎氏／  
21世紀のものづくり⑥ 万年筆 他



Vol.74  
Winter 2025

特集 未来へ

太刀川英輔氏、渡部二郎／  
城宝薫氏／大沼学氏／  
21世紀のものづくり⑤ ミニ盆栽 他

次号「プロワイズ」は、2026年3月に発行予定です。

\* 記事の内容はご登場いただいた方々のご意見であり、  
当社の考えを表現しているものではありません。

\* 掲載内容は取材当時のものです。

## From the Editor

編集部より

「自由に」という言葉には、境界を越え、新しい  
価値を生み出す力があります。国や地域、制  
度、仕事、ジェンダー、思考——私たちは多くの  
ボーダーに囲まれています。人は常にそれを  
越えたいと願ってきました。その思いが歴史を  
動かし、未来を紡いでいくのだと考えています。

今回、インタビューでお話を伺った3人は、  
「自由」を体現していました。林家つる子さんは、  
男性中心の落語界で古典を女性目線で再解釈  
し、笑いの世界をもっと豊かにしています。半澤  
節さんは、社会課題に挑む起業家を育てる場を  
つくり、失敗を恐れない文化を広げています。そ  
して小林涼子さんは、都市農業と福祉を融合さ  
せ、自然と人、企業と地域を再接続する挑戦を  
続けています。

当社もボーダーレスな社会の実現に取り組ん  
でいます。根底にあるのはSXの考え方です。企  
業活動を通じてESGを重視し、デジタルと人の  
力を融合させながら、持続可能な社会を共に築  
くこと。境界を越えた協創が、新しい価値を生  
み、未来を豊かにする。この想いを共有しなが  
ら、2026年も持続可能な社会の実現を皆様と  
一緒に考えていきます。



HITACHI

# ハロー、みんなのSX。



世界中の人々が心地よくつながりあう社会。  
自然と人間、さまざまな生物がしあわせに共存する世界。

ワクワクするような未来は、ひとりでは描けないから。  
SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）のもとで、  
みんなの力をひとつにしよう。

サステナブルな未来は、協創でつくる。

確かなテクノロジーと、未来への希望を持ち寄って、  
私たちはひとつのチームになる。

企業や、国境や、文化の違いを超えて、  
みんなの力で、あたらしい景色を創造しよう。  
日立ソリューションズと、ともに未来へ。

日立ソリューションズ



表紙には抗菌加工を施しています。

オフィシャルサイトはこちらから  
[www.hitachi-solutions.co.jp](http://www.hitachi-solutions.co.jp)

